

第15回（平成15年4月）

統一地方選挙の実態

—調査結果の概要—

平成16年3月

財団法人 明るい選挙推進協会



はしがき

財団法人 明るい選挙推進協会では、第15回統一地方選挙(平成15年4月13日 都道府県・指定都市、4月27日 市区町村)における有権者の投票行動と意識を探り、今後の選挙啓発活動に資するため、全国の有権者3,000人を対象として、面接調査の方法により調査いたしました。

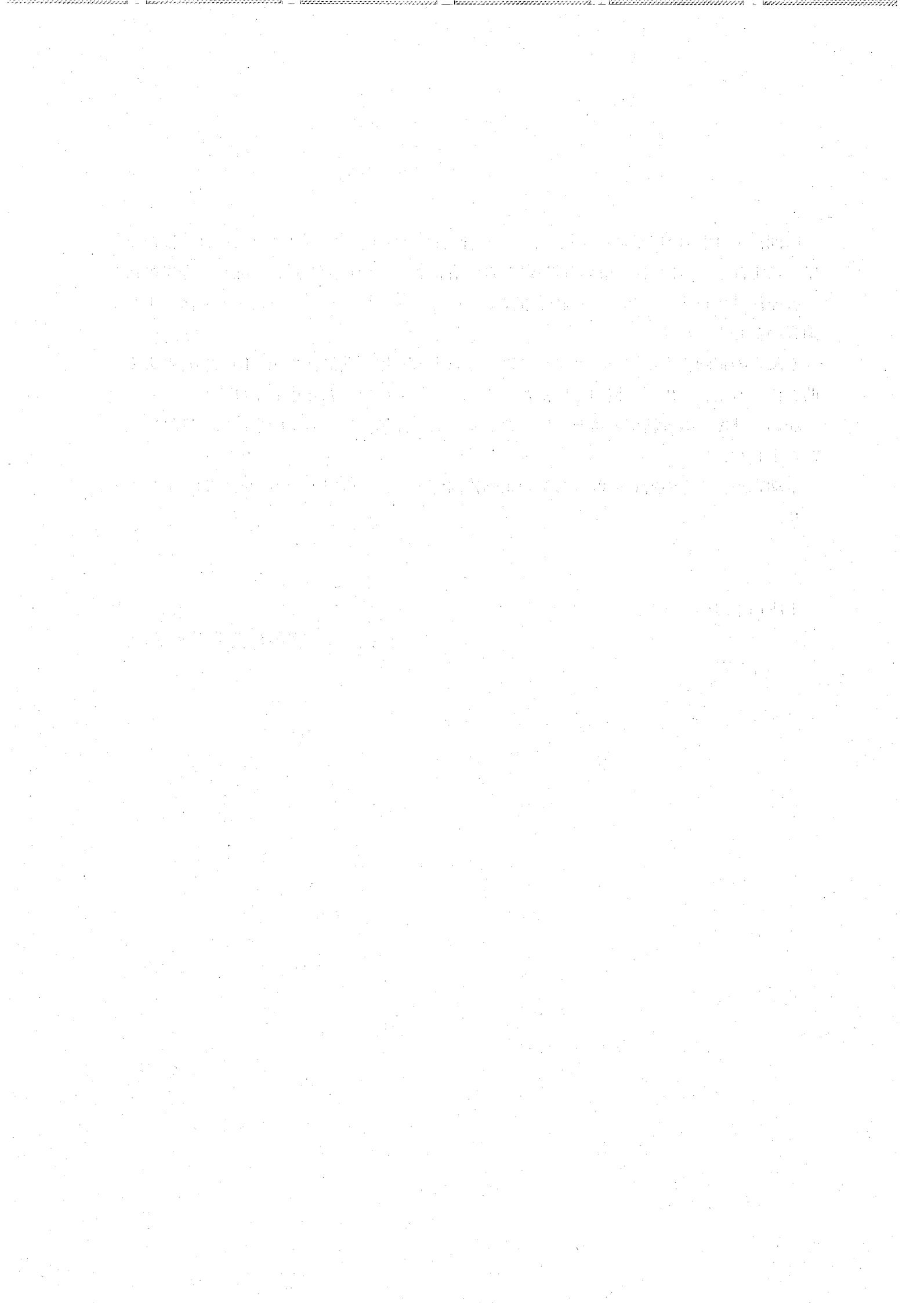
本調査の企画、実施に当たりましては、東京大学教授 蒲島郁夫氏、国際基督教大学助教授 石生義人氏にご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

なお、「IV 調査結果の概要」につきましても、蒲島教授、石生助教授にご執筆いただきました。

本調査が、今後の新しい啓発事業の企画検討のよき参考資料となることを願ってやみません。

平成16年3月

財団法人 明るい選挙推進協会



目 次

I 調査の設計	1
II 標本抽出方法	3
III 質問表と回答の単純分布	6
IV 調査結果の概要	23
1 はじめに	23
2 選挙結果から	24
(1) 投票率	24
(2) 選挙競争率	27
3 選挙関心度	28
4 投票傾向	30
(1) 社会的属性と投票傾向	30
(2) 社会・政治意識と投票傾向	33
5 投票・棄権の理由、投票決定時期	36
6 政党支持と投票	40
(1) 政党支持	40
(2) 政党支持と投票行動	40
(3) 考慮した問題	41
7 選挙関連情報源	43
(1) 情報媒体への接触度・有効度と効率性	43
(2) 候補者情報の不足	46
8 選挙のあり方	47
(1) 無投票当選の是非	47
(2) 地元推薦について	48
9 政治一般の評価	50
(1) 国と地方の政治の評価	50
10 後援会加入の実態	52

11	明るい選挙推進諸活動の周知と参加	56
12	政治家の寄附禁止の周知	59
13	投票時間の延長について	61
14	清潔度の印象	63
15	まとめ	64
	付録：調査対象者の社会的特徴	66

I 調査の設計

1 調査の目的

この調査は、平成15年4月13日と4月27日に執行された第15回統一地方選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とする目的とする。

2 調査の項目

この調査は、次を調査の項目とした。

- (1) 知事選挙の投票の経緯
- (2) 道府県議会議員選挙の投票の経緯
- (3) 市区町村長選挙の投票の経緯
- (4) 市区町村議会議員選挙の投票の経緯
- (5) 地方選挙に関する意向
- (6) 政治に対する関心と態度

3 調査の設計

この調査は、次のように設計した。

(1) 調査地域	全国(統一地方選挙として選挙が執行されなかった沖縄県全域および茨城県の一部を除く)
(2) 調査対象	満20歳以上の男女個人
(3) 標本数	3,000人
(4) 抽出方法	層化2段無作為抽出法
(5) 調査方法	調査員による面接調査
(6) 調査時期	平成15年5月6日から5月31日まで
(7) 調査実施委託機関	社団法人 中央調査社

4 回収結果

(1) 有効回収数	2,223(74.1%)
(2) 回収不能数	777(25.9%)
(3) 回収不能理由内訳	
転居	79(2.63%)
長期不在	55(1.83%)
一時不在	292(9.73%)
住所不明	28(0.93%)
拒否	292(9.73%)
その他	31(1.03%)

(4) 男女・年齢別、都市規模別回収結果

①男性

年齢	標本数	回収数	回収率
20歳代前半	93	47	50.5%
20歳代後半	124	65	52.4%
30歳代	239	136	56.9%
40歳代	211	129	61.1%
50歳代	299	219	73.2%
60歳代	259	225	86.9%
70歳代	160	144	90.0%
80歳以上	27	19	70.4%
合計	1,412	984	69.7%

②女性

年齢	標本数	回収数	回収率
20歳代前半	91	43	47.3%
20歳代後半	129	79	61.2%
30歳代	241	180	74.7%
40歳代	268	217	81.0%
50歳代	319	267	83.7%
60歳代	304	265	87.2%
70歳代	180	150	83.3%
80歳以上	56	38	67.9%
合計	1,588	1,239	78.0%

③都市規模別

都市規模	標本数	回収数	回収率
大都市	708	489	69.1%
人口10万人以上の市	1,140	835	73.2%
人口10万人未満の市	544	419	77.0%
町村	608	480	78.9%
合計	3,000	2,223	74.1%

II 標本抽出方法

1 母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の者

(沖縄県全域及び茨城県の一部は除く)

2 標本数：3,000人

3 地点数：205市区町村 207地点

4 抽出方法：層化2段無作為抽出法

[層化]

(1) 全国の市区町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。

北海道地区 北海道 (1道)

東北地区 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 (6県)

関東地区 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
(1都6県)

北陸地域 新潟県、富山県、石川県、福井県 (4県)

東山地区 山梨県、長野県、岐阜県 (3県)

東海地区 静岡県、愛知県、三重県 (3県)

近畿地区 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
(2府4県)

中国地区 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 (5県)

四国地区 徳島県、香川県、愛媛県、高知県 (4県)

北九州地区 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県 (4県)

南九州地区 熊本県、宮崎県、鹿児島県 (3県)

(2) 各地区内においては、さらに都市規模によって次のように17分類し、それぞれを第一次層として計47層とした。

・大都市(各都市ごとに分類)

(東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、

名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市)

・人口10万人以上の市

・人口10万人未満の市

・町村

(注) ここでいう市とは、平成15年4月1日現在市制施行の地域である。

(3) 各地区・都市規模の層別における母集団人口(平成14年3月31日現在の満20歳以上の人口)の大きさにより、3,000の標本数を比例配分し、1調査地点の標本が15人前後になるよう調査地点数を決めた。

[抽出]

(1) 第一次抽出単位となる調査地点として、平成12年国勢調査時に設定された調査地区を使用した。

(2) 調査地点(調査区)の抽出は

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における20歳以上国勢調査人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

(3) 抽出に際しての各層内における市区町村配列順序は、平成14年4月1日現在の市区町村コード順に従った。

(4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点(町・丁目・番地・地区などを指定)から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

5 結果

以上、抽出作業の結果得られた地区・都市規模別標本数・調査地点数は次のとおりである。

()内は調査地点数

都市規模 地区	大都市	人口10万人 以上の市	人口10万人 未満の市	町村	計
北海道	45(3)	41(3)	22(2)	32(2)	140(10)
東北	24(2)	69(5)	59(4)	85(6)	237(17)
関東	369(25)	369(24)	114(8)	86(6)	938(63)
北陸		52(4)	40(3)	44(3)	136(10)
東山		43(3)	37(3)	45(3)	125(9)
東海	52(4)	136(9)	55(4)	62(4)	305(21)
近畿	134(10)	224(14)	79(5)	66(5)	503(34)
中国	27(2)	76(5)	37(3)	48(3)	188(13)
四国		40(3)	26(2)	36(3)	102(8)
北九州	57(4)	45(3)	48(3)	58(4)	208(14)
南九州		45(3)	27(2)	46(3)	118(8)
計	708(50)	1,140(76)	544(39)	608(42)	3,000(207)

大都市(各都市別)

東京都区部	206(13)	川崎市	31(2)	神戸市	36(3)
札幌市	45(3)	横浜市	85(6)	広島市	27(2)
仙台市	24(2)	名古屋市	52(4)	北九州市	25(2)
さいたま市	25(2)	京都市	35(3)	福岡市	32(2)
千葉市	22(2)	大阪市	63(4)		

III 質問表と回答の単純分布

第 7602 号

統一地方選挙に関する意識調査

平成 15 年 5 月

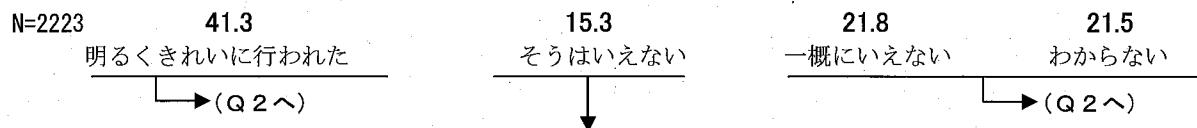
社団法人 中央調査社

支局番号	地 点 番 号	対象番号	調 査 月 日	調 査 員 名	点 檢 者 名
			月	日	

財団法人 明るい選挙推進協会から依頼を受けて選挙に関するご意見をお伺いにあがりました。この調査は、全国の有権者を対象に、先日行われた統一地方選挙のことを中心にして、あなたのご意見をお伺いし、今後の明るい選挙推進のための参考資料とすることが目的です。お答えいただいたことは全部統計にまとめるだけで、名前も出ませんし、また絶対にほかに漏れることはありますから、率直なご意見をお聞かせください。

どうしても答えられない時は「わからない」とおっしゃっていただいて結構ですので、どうかよろしくお願いいたします。

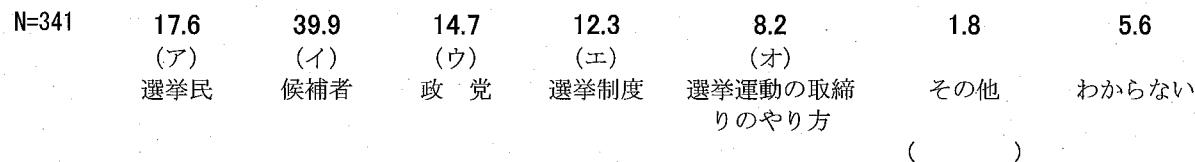
Q 1. 今回の統一地方選挙は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか、そうはいえないと思いますか。



S Q 1. それはどういう点ですか。具体的におっしゃってください。(F. A.)

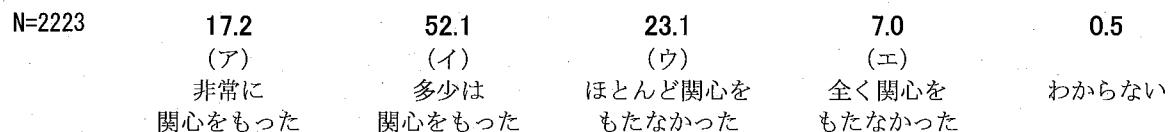


S Q 2. 【回答票 1】今回の選挙が明るくきれいに行われなかつたのは、主としてこの中のどれに責任があると思いますか。1つ選んでください。



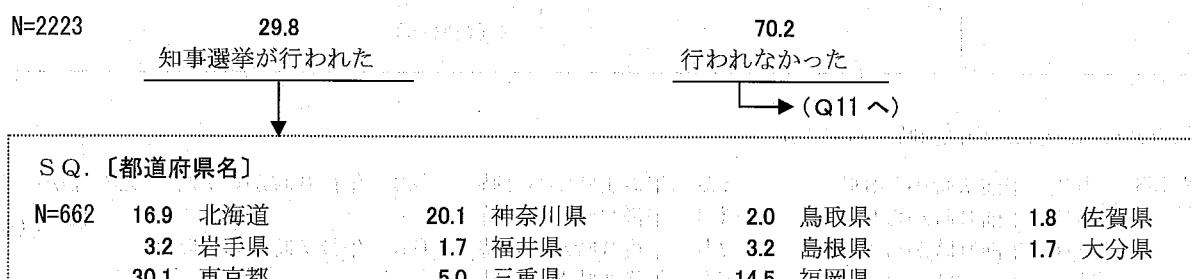
〔全員に〕

Q 2. 【回答票 2】今回の統一地方選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

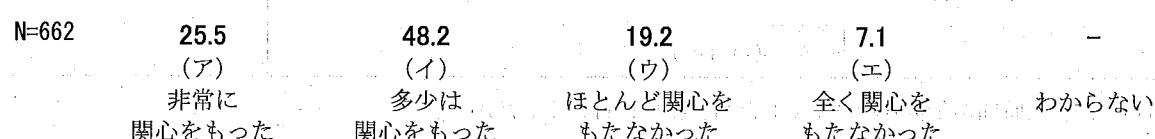


[I 知事選挙]

Q 3. [調査員記入] 調査地点では知事選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する都道府県の番号にも○印をつける。



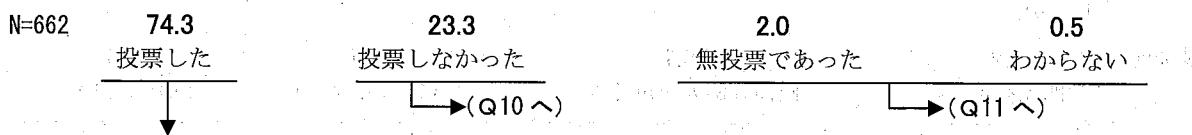
Q 4. [回答票3] 今回の知事選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。



Q 5. [回答票4] 知事選挙で、あなたはどのような問題を考えましたか。この中にあればあげてください。
(M. A.)

N=662	24.8 (ア) 地方自治のあり方	12.8 (ケ) 中小企業対策
	44.1 (イ) 福祉・医療	5.4 (コ) 各種の公共施設
	20.7 (ウ) 教育・文化	26.6 (サ) 税金
	8.2 (エ) 災害対策	17.1 (シ) 財政再建
	23.1 (オ) 公害・環境問題	33.2 (ス) 景気・物価
	15.7 (カ) 地域振興	1.1 その他()
	10.1 (キ) 土地・住宅・交通問題	11.5 政策は考えなかつた
	4.7 (ク) 農業対策	7.9 わからない

Q 6. あなたは、4月13日に行われた知事選挙で、投票しましたか、しませんでしたか。

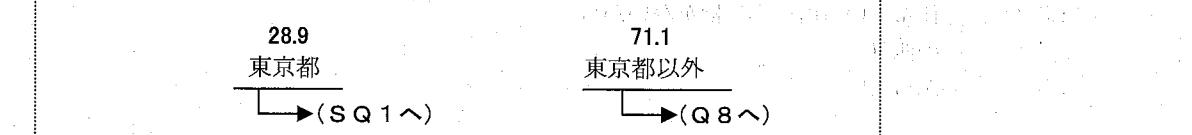


[Q 6で「1 投票した」と答えた人に]

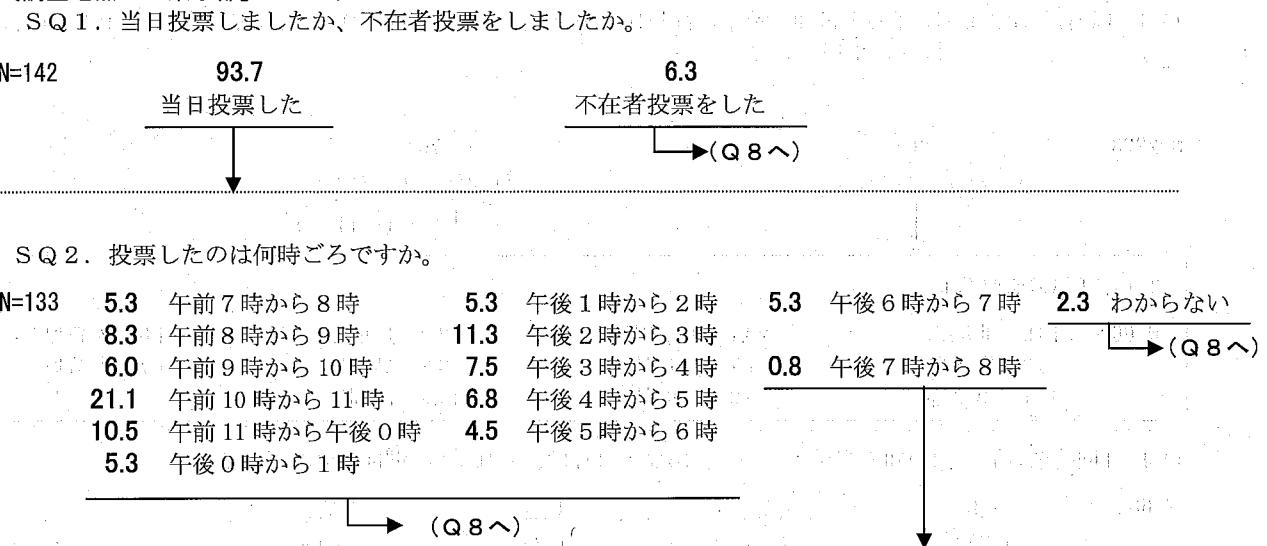
Q 7. [回答票5] 知事選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

N=492	16.7 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
	6.1 (イ) 自分の支持している政党の推す候補者を当選させたかったから
	14.8 (ウ) 自分たちの利益を守ってくれるような人を当選させたかったから
	32.1 (エ) 政治をよくするために投票することが大事だから
	27.4 (オ) 投票するのは住民の義務だから
	2.0 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
	0.2 その他()
	0.6 わからない

【調査員注】調査地点が……



〔調査地点が「東京都」の人に〕



SQ 2. 投票したのは何時ごろですか。

N=8	37.5 はい	50.0 いいえ	12.5 わからない

→ (Q 8へ)

〔Q 6で「1 投票した」と答えた人に〕

Q 8. [回答票 6] あなたが知事選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

N=492	35.2 (ア) 選挙期間に入る前から	23.0 (イ) 選挙期間の初めごろ	20.3 (ウ) 選挙期間の中ごろ	15.2 (エ) 選挙期間の終りごろ	5.5 (オ) 投票日当日	0.8 わからない

Q 9. 知事選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=492	10.2 政党関係を重くみて	79.1 候補者個人を重くみて	9.1 一概にいえない	1.6 わからない

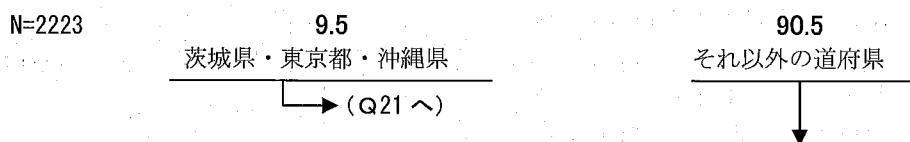
〔Q 6で「2 投票しなかった」と答えた人に〕

Q 10. [回答票 7] 知事選挙で、あなたが、投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。
(M. A.)

N=154	39.6 (ア) 用があったから
	13.6 (イ) 病気だったから
	9.1 (ウ) 面倒だから (投票所が遠いからを含む)
	26.0 (エ) 選挙にあまり関心がなかったから
	13.6 (オ) 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから
	6.5 (カ) 適当な候補者がいなかったから
	11.0 (キ) 私一人が投票してもしなくても同じだから
	7.8 (ク) 選挙結果が予想できるような無風選挙であったから
	8.4 (ケ) 選挙によって政治はよくならないと思ったから
	1.3 (コ) 今住んでいる所に選挙権がないから
	2.6 その他 ()
	1.3 わからない

[II 道府県議会議員選挙]

Q11. [調査員記入] 調査地点の都道府県によって1または2のどちらかに分類する。



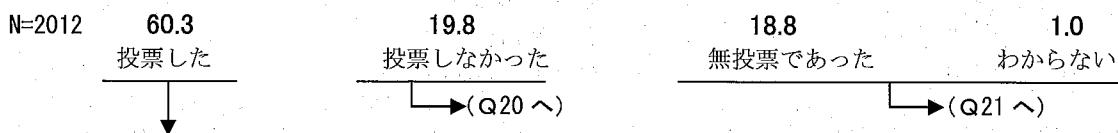
Q12. [回答票8] 今回の県(道・府)議会議員の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

N=2012	17.1	46.3	25.5	10.3	0.7
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
非常に 関心をもった	多少は 関心をもった	ほとんど関心を もたなかつた	全く関心を もたなかつた		わからない

Q13. [回答票9] 県(道・府)議会議員の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。(M.A.)

N=2012	18.3 (ア) 地方自治のあり方	10.6 (ケ) 中小企業対策
	40.4 (イ) 福祉・医療	4.5 (コ) 各種の公共施設
	16.2 (ウ) 教育・文化	22.4 (サ) 税金
	5.8 (エ) 災害対策	10.1 (シ) 財政再建
	13.2 (オ) 公害・環境問題	30.6 (ス) 景気・物価
	15.9 (カ) 地域振興	1.6 その他()
	8.0 (キ) 土地・住宅・交通問題	17.9 政策は考えなかった
	5.2 (ク) 農業対策	7.5 わからない

Q14. あなたは、4月13日に行われた県(道・府)議会議員の選挙で投票しましたか、しませんでしたか。



[Q14で「1 投票した」と答えた人に]

Q15. [回答票10] 県(道・府)議会議員の選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

N=1214	22.6 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
	9.6 (イ) 自分の支持している政党の推す候補者を当選させたかったから
	10.9 (ウ) 自分たちの利益を守ってくれるような人を当選させたかったから
	19.7 (エ) 政治をよくするために投票することが大事だから
	30.0 (オ) 投票するのは住民の義務だから
	6.5 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
	0.5 その他()
	0.2 わからない

S Q 1. 当日投票しましたか、不在者投票をしましたか。



[Q15SQ1で「1 当日投票した」と答えた人に]

SQ2. 投票したのは何時ごろですか。

N=1123 9.2 午前7時から8時

11.0 午前8時から9時

12.5 午前9時から10時

17.4 午前10時から11時

9.4 午前11時から午後0時

6.2 午後0時から1時

7.3 午後1時から2時

6.3 午後2時から3時

4.1 午後3時から4時

5.0 午後4時から5時

5.8 午後5時から6時

2.7 午後6時から7時

2.7 午後7時から8時

0.4 わからない

→(Q16へ)

→(Q16へ)

SQ3. 投票時間が午後6時まででしたら、投票に行きましたか。

N=60

60.0

はい

26.7

いいえ

13.3

わからない

[Q14で「1 投票した」と答えた人に]

Q16. 県（道・府）議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさしつかえなければおっしゃってください。

N=1214 36.7 自由民主党

8.1 民主党

5.9 公明党

3.5 日本共産党

1.6 自由党

2.4 社会民主党

0.2 保守新党

0.6 その他（

20.7 無所属

20.4 わからない

Q17. 前回の統一地方選挙（平成11年4月）の県（道・府）議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。

N=1214 37.1 自由民主党

6.4 民主党

4.9 公明党

3.3 日本共産党

1.2 自由党

2.6 社会民主党

- さきがけ

4.2 その他（

12.4 無所属

27.8 わからない

Q18. [回答票11] あなたが、県（道・府）議会議員の選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

N=1214

45.7

18.1

16.2

13.1

6.1

0.7

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

(オ)

選挙期間に
入る前から

選挙期間の
初めごろ

選挙期間の
中ごろ

選挙期間の
終りごろ

投票日当日

わからない

Q19. 県（道・府）議会議員の選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=1214

19.6

政党関係を重くみて

68.6

候補者個人を重くみて

10.2

一概にいえない

1.6

わからない

SQ1. [回答票12] 政党の方を重くみて投票した理由ですが、この中のどういうことによってですか。1つあげてください。

N=238 5.0 (ア) 私は党員だから

43.3 (イ) その党の政策や活動を支持するから

12.6 (ウ) なんとなくその党が好きだから

34.9 (エ) ほかの党よりもまだから

2.9 その他（ ）

1.3 わからない

SQ2. [回答票13] 候補者個人を重くみて投票した理由ですが、この中のどういうことによってですか。1つあげてください。

N=833 43.1 (ア) その候補者の人物がよいから

26.4 (イ) その候補者の政策や実績がよいから

3.4 (ウ) その候補者からいろいろ世話をなったから

4.3 (エ) その候補者の後援会に入っているから

16.8 (オ) ほかの候補者よりもまだから

4.0 その他（ ）

2.0 わからない

(ここまで聞けばQ21へ)

[Q14で「2 投票しなかった」と答えた人に]

Q20. [回答票 14] 県(道・府)議会議員の選挙で投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。(M. A.)

- | | |
|-------|---|
| N=399 | 40.9 (ア) 用があったから |
| | 9.0 (イ) 病気だったから |
| | 6.3 (ウ) 面倒だから(投票所が遠いからを含む) |
| | 30.3 (エ) 選挙にあまり関心がなかったから |
| | 14.8 (オ) 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから |
| | 11.3 (カ) 適当な候補者がいなかったから |
| | 8.3 (キ) 私一人が投票してもしなくても同じだから |
| | 3.0 (ク) 選挙結果が予想できるような無風選挙であったから |
| | 11.0 (ケ) 選挙によって政治はよくならないと思ったから |
| | 1.0 (コ) 今住んでいる所に選挙権がないから |
| | 5.8 その他() |
| | 1.0 わからない |

[III 市区町村長選挙]

Q21. [調査員記入] 調査地点では4月13日または27日に市区町村長選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する選挙の種類の番号にも○印をつける。

N=2223	22.9 行われた(無投票当選を含む)	77.1 行われなかつた
		→(Q29へ)

S Q. [選挙の種類]

N=510	60.8 市長選挙	20.8 東京23区(特別区)の区長選挙	18.4 町長選挙	— 村長選挙
-------	--------------	-------------------------	--------------	-----------

Q22. [回答票 15] 今回の市(区・町・村)長選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

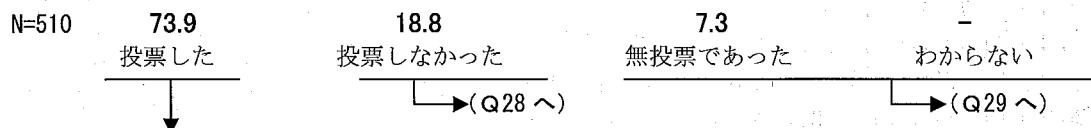
N=510	30.4 (ア) 非常に 関心をもつた	41.8 (イ) 多少は 関心をもつた	19.0 (ウ) ほとんど 関心をもつた	8.6 (エ) 全く 関心をもたなかつた	0.2 わからない もたなかつた
-------	------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------

Q23. [回答票 16] 市(区・町・村)長選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。(M. A.)

N=510	22.9 (ア) 地方自治のあり方	11.0 (コ) 各種の公共施設
	41.6 (イ) 福祉・医療	22.2 (サ) 税金
	19.0 (ウ) 教育・文化	13.3 (シ) 財政再建
	8.0 (エ) 災害対策	25.9 (ス) 景気・物価
	15.5 (オ) 公害・環境問題	12.4 (セ) 市町村合併
	18.6 (カ) 地域振興	1.8 その他()
	11.2 (キ) 土地・住宅・交通問題	16.7 政策は考えなかつた
	2.7 (ク) 農業対策	6.1 わからない
	10.2 (ケ) 中小企業対策	

Q24. あなたは

[札幌市の場合→4月13日に行われた市長選挙、
東京23区(特別区)とその他の市町村の場合→4月27日に行われた市(区・町・村)長選挙で
投票しましたか、しませんでしたか。]



[Q24で「1 投票した」と答えた人に]

Q25. [回答票 17] 市(区・町・村)長選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

N=377 20.7 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
5.0 (イ) 自分の支持している政党の推す候補者を当選させたかったから
14.9 (ウ) 自分たちの利益を守ってくれるような人を当選させたかったから
26.3 (エ) 政治をよくするために投票することが大事だから
27.9 (オ) 投票するのは住民の義務だから
4.2 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
0.5 その他 ()
0.5 わからない

Q26. [回答票 18] あなたが市(区・町・村)長選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。
この中からおっしゃってください。

N=377 42.4 18.0 15.9 15.4 7.7 0.5
(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ)
選挙期間に
入る前から 選挙期間の
初めごろ 選挙期間の
中ごろ 選挙期間の
終りごろ 投票日当日 わからない

Q27. 市(区・町・村)長選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=377 9.0 75.6 14.6 0.8
政党関係を重くみて 候補者個人を重くみて 一概にいえない わからない

[Q24で「2 投票しなかった」と答えた人に]

Q28. [回答票 19] 市(区・町・村)長選挙で投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。
(M. A.)

N=96 38.5 (ア) 用があったから
11.5 (イ) 病気だったから
11.5 (ウ) 面倒だから(投票所が遠いからを含む)
28.1 (エ) 選挙にあまり関心がなかったから
15.6 (オ) 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから
6.3 (カ) 適当な候補者がいなかったから
7.3 (キ) 私一人が投票してもしなくても同じだから
3.1 (ク) 選挙結果が予想できるような無風選挙であったから
7.3 (ケ) 選挙によって政治はよくならないと思ったから
4.2 (コ) 今住んでいる所に選挙権がないから
4.2 その他 ()
1.0 わからない

[IV 市区町村議会議員選挙]

Q29. [調査員記入] 調査地点では4月13日または27日に市区町村議会議員選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する選挙の種類の番号にも○印をつける。

N=2223

68.5

行われた（無投票当選を含む）

31.5

行われなかつた



→(Q39へ)

S Q. [選挙の種類]

N=1522 21.9 4月13日に札幌、仙台、さいたま、千葉、川崎、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡の12市で行われた市議会議員の選挙

7.7 4月27日に東京23区（特別区）で行われた区議会議員の選挙

54.3 4月27日にその他の市で行われた市議会議員の選挙

13.9 4月27日に行われた町議会議員の選挙

2.2 4月27日に行われた村議会議員の選挙

Q30. [回答票 20] 今回の市（区・町・村）議会議員の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

N=1522

26.3

44.3

20.5

8.1

0.8

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

非常に

多少は

ほとんど関心を

全く関心を

わからない

関心をもつた

関心をもつた

もたなかつた

もたなかつた

Q31. [回答票 21] 市（区・町・村）議会議員の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。(M. A.)

N=1522

19.2 (ア) 地方自治のあり方

7.2 (コ) 各種の公共施設

41.1 (イ) 福祉・医療

18.7 (サ) 税金

20.2 (ウ) 教育・文化

8.6 (シ) 財政再建

7.0 (エ) 災害対策

24.9 (ス) 景気・物価

14.1 (オ) 公害・環境問題

9.1 (セ) 市町村合併

20.4 (カ) 地域振興

0.9

その他（

9.3 (キ) 土地・住宅・交通問題

17.4 政策は考えなかつた

4.2 (ク) 農業対策

5.8 わからない

7.1 (ケ) 中小企業対策

Q32. あなたは

札幌、仙台、さいたま、千葉、川崎、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡の12市の

場合→4月13日に行われた市議会議員の選挙

東京23区とその他の市町村の場合→4月27日に行われた市（区・町・村）議会議員の選挙

で投票しましたか、しませんでしたか。

[注 「無投票であった」、「わからない」と答えた人にもQ38を聞くこと。]

N=1522

72.4

投票した

22.5

投票しなかつた

4.5

無投票であった

0.5

わからない

→(Q33へ)

→(Q37へ)

→(Q38へ)

[Q32で「1 投票した」と答えた人に]

Q33. [回答票 22] 市（区・町・村）議会議員の選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

- | | |
|--------|--|
| N=1102 | 27.9 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから |
| | 9.4 (イ) 自分の支持している政党の推す候補者を当選させたかったから |
| | 12.8 (ウ) 自分たちの利益を守ってくれるような人を当選させたかったから |
| | 18.0 (エ) 政治をよくするためには投票することが大事だから |
| | 22.1 (オ) 投票するのは住民の義務だから |
| | 8.3 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて |
| | 0.6 その他 () |
| | 0.7 わからない |
-

Q34. 市（区・町・村）議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさしつかえなければおっしゃってください。

- | | | |
|--------|------------|-------------|
| N=1102 | 23.1 自由民主党 | 1.4 社会民主党 |
| | 6.0 民主党 | 0.3 保守新党 |
| | 7.4 公明党 | 0.9 その他 () |
| | 4.0 日本共産党 | 33.4 無所属 |
| | 0.5 自由党 | 23.0 わからない |
-

Q35. [回答票 23] あなたが市（区・町・村）議会議員の選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

- | | | | | | | |
|--------|---------------------|---------------|--------------|---------------|---------------|-----------|
| N=1102 | 47.8 (ア) 選挙期間に入る前から | 18.1 (イ) 初めごろ | 14.2 (ウ) 中ごろ | 13.5 (エ) 終りごろ | 5.9 (オ) 投票日当日 | 0.4 わからない |
|--------|---------------------|---------------|--------------|---------------|---------------|-----------|
-

Q36. 市（区・町・村）議会議員の選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

- | | | | | |
|--------|----------------|-----------------|-------------|-----------|
| N=1102 | 14.2 政党関係を重くみて | 75.2 候補者個人を重くみて | 9.6 一概にいえない | 0.9 わからない |
|--------|----------------|-----------------|-------------|-----------|
- (ここまで聞けばQ38へ)
-

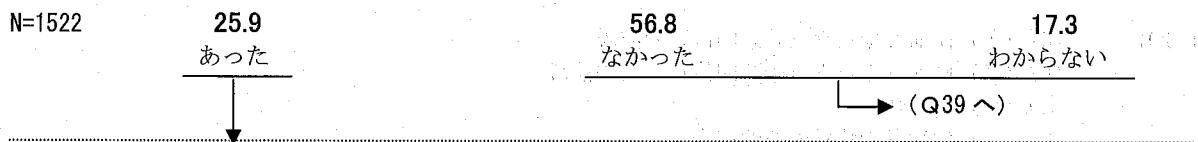
[Q32で「2 投票しなかった」と答えた人に]

Q37. [回答票 24] 市（区・町・村）議会議員の選挙で投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。（M. A.）

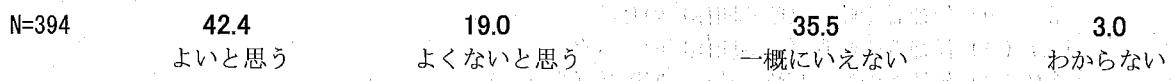
- | | |
|-------|---|
| N=343 | 42.3 (ア) 用があったから |
| | 9.6 (イ) 病気だったから |
| | 7.3 (ウ) 面倒だから（投票所が遠いからを含む） |
| | 27.7 (エ) 選挙にあまり関心がなかったから |
| | 18.7 (オ) 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから |
| | 13.4 (カ) 適当な候補者がいなかったから |
| | 8.2 (キ) 私一人が投票してもしなくても同じだから |
| | 0.3 (ク) 選挙結果が予想できるような無風選挙であったから |
| | 10.8 (ケ) 選挙によって政治はよくならないと思ったから |
| | 1.2 (コ) 今住んでいる所に選挙権がないから |
| | 4.4 その他 () |
| | 1.2 わからない |

[全員に]

Q38. 市（区・町・村）議会議員の選挙の場合、地元から議員を出そうというので、自治会・町内会・隣組などで候補者を推せんするというようなことがよくありますが、この辺でも今回の選挙でそういうことがありましたか。



S Q. そのことはよいことだと思いますか、よくないことだと思いますか。



[全員に]

Q39. [回答票 25] 役に立ったか立たなかつたかは別として、統一地方選挙で、あなたが見たり、聞いたり、すすめられたりしたものが、この中にありましたら、全部おっしゃってください。

(M. A.)

- N=2223 17.1 (ア) 候補者や政党（確認団体）の演説会
 - 25.2 (イ) 候補者や政党（確認団体）の街頭演説
 - 46.6 (ウ) 連呼
 - 24.7 (エ) 候補者や政党の新聞広告
 - 33.4 (オ) 候補者の葉書
 - 32.7 (カ) 候補者や政党（確認団体）のビラ
 - 47.1 (キ) 候補者や政党（確認団体）のポスター
 - 11.2 (ク) 候補者のテレビ政見放送（経歴放送を含む）
 - 2.1 (ケ) 候補者のラジオ政見放送（経歴放送を含む）
 - 34.1 (コ) 選挙公報
 - 8.8 (サ) 政党の機関紙
 - 31.1 (シ) 電話による勧誘
 - 14.4 (ス) 選挙熱心な人の勧誘
 - 15.5 (セ) 家族の話し合い
 - 11.0 (ソ) 近所の評判
 - 5.0 (タ) 職場での話し合い
 - 24.3 (チ) 友人・知人・親戚のすすめ
 - 2.1 (ツ) 上役や有力者のすすめ
 - 3.4 (テ) 労働組合関係のすいせん
 - 5.1 (ト) 仕事関係の団体（同業組合・商店会など）のすいせん
 - 9.5 (ナ) 自治会・町内会・区会などのすいせん
 - 3.1 (二) その他の団体（宗教団体・文化団体など）のすいせん
 - 12.5 (ヌ) 後援会のすいせんや依頼
 - 17.2 (ネ) 新聞の選挙報道（解説・評論を含む）
 - 14.2 (ノ) テレビの選挙報道（解説・評論を含む）
 - 1.8 (ハ) ラジオの選挙報道（解説・評論を含む）
 - 1.1 (ヒ) 週刊誌・雑誌の選挙報道（解説・評論を含む）
 - 0.8 (フ) インターネット・ホームページ
 - 0.1 (ヘ) 携帯電話（iモード等）
 - 1.4 (ホ) 公開討論会
 - 7.6 この中のどれも見聞きしない
 - 1.5 わからない
- (Q41へ)

[Q39で1~30と答えた人に]

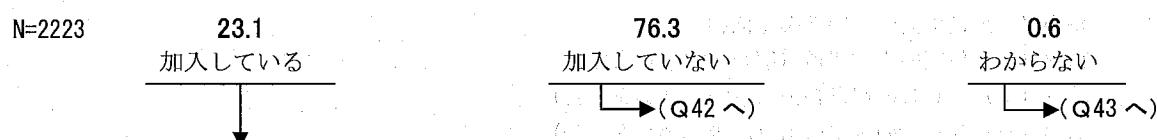
Q40. [回答票 25] 統一地方選挙で、候補者の情報を得るのに役に立ったものがこの中にありましたら、おしゃってください。あなたが投票なさらなかつた場合でもお答えください。いくつでも結構です。(M. A.)

- N=2019
- 8.1 (ア) 候補者や政党（確認団体）の演説会
 - 9.7 (イ) 候補者や政党（確認団体）の街頭演説
 - 4.5 (ウ) 運・呼
 - 8.9 (エ) 候補者や政党の新聞広告
 - 7.0 (オ) 候補者の葉書
 - 8.9 (カ) 候補者や政党（確認団体）のビラ
 - 11.7 (キ) 候補者や政党（確認団体）のポスター
 - 5.0 (ク) 候補者のテレビ政見放送（経歴放送を含む）
 - 0.7 (ケ) 候補者のラジオ政見放送（経歴放送を含む）
 - 19.0 (コ) 選挙公報
 - 3.5 (サ) 政党の機関紙
 - 2.9 (シ) 電話による勧誘
 - 3.3 (ス) 選挙熱心人の勧誘
 - 7.6 (セ) 家族の話し合い
 - 4.7 (ソ) 近所の評判
 - 1.6 (タ) 職場での話し合い
 - 11.1 (チ) 友人・知人・親戚のすすめ
 - 0.5 (ツ) 上役や有力者のすすめ
 - 1.2 (テ) 労働組合関係のすいせん
 - 1.9 (ト) 仕事関係の団体（同業組合・商店会など）のすいせん
 - 3.5 (ナ) 自治会・町内会・区会などのすいせん
 - 0.9 (二) その他の団体（宗教団体・文化団体など）のすいせん
 - 4.1 (ヌ) 後援会のすいせんや依頼
 - 10.2 (ネ) 新聞の選挙報道（解説・評論を含む）
 - 6.4 (ノ) テレビの選挙報道（解説・評論を含む）
 - 0.7 (ハ) ラジオの選挙報道（解説・評論を含む）
 - 0.5 (ヒ) 週刊誌・雑誌の選挙報道（解説・評論を含む）
 - 0.4 (フ) インターネット・ホームページ
 - (ヘ) 携帯電話（iモード等）
 - 0.7 (ホ) 公開討論会
 - 26.2 役に立ったものはない
 - 3.1 わからない

—以下、全員に質問する—

[V 地方選挙全般について]

Q41. あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか。



S Q 1. [回答票 26] あなたは、その後援会にどういうことで加入されましたか。この中から選んでください。(M. A.)

- N=513
- 32.2 (ア) その議員や候補者の人物や主義・主張がよいから
 - 58.3 (イ) いろいろな縁故や義理の関係から
 - 16.0 (ウ) 事業や職業上の関係から
 - 2.3 その他 ()
 - 1.0 わからない

S Q 2. あなたは、その後援会の会費を払っていますか、いませんか。

N=513	7.0	91.8	1.2
	い る	い ない	わ か ら な い

↓

→(Q43へ)

S Q 3. [回答票 27] では、会費は年間いくらぐらいですか。おさしつかえなければこの中からおっしゃってください。

N=36	66.7 (ア) 1,000 円未満	5.6 (オ) 10,000 円以上
	13.9 (イ) 1,000 円以上	その他 (ホ) 1,000 円以上
	11.1 (ウ) 3,000 円以上	わ か ら な い
	2.8 (エ) 5,000 円以上	

[ここまで聞いたら Q43へ]

[Q41で「2 加入していない」と答えた人に] あなたは、今までに選挙の候補者の後援会に加入してほしいと人からさせられたことがありますか。

N=1697	37.5	61.1 ある	1.4 ない
	あ る	な い	わ か ら な い

[全員に]

Q43. 地方選挙で「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」という声があります。最近の地方選挙で、あなたは、そうお感じになったことがありますか。

N=2223	45.3	49.8 感じたことがある	4.9 (イ) ない
	感 慨 た こ と が あ 有	な い	わ か ら な い

↓

→(Q44へ)

S Q. どの選挙でしたか。(M. A.)

N=1007	33.4 知事選挙	63.5 県(都・道・府)議会議員選挙	32.5 市(区・町・村)長選挙	52.5 市(区・町・村)議会議員選挙	5.1 わ か ら な い
--------	------------------	----------------------------	-------------------------	----------------------------	----------------------

[全員に]

Q44. [回答票 28] 今回の統一地方選挙では、道府県議会議員選挙や市区町村長選挙などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。この中からあなたの気持ちに近いものを1つだけあげてください。

N=2223	40.8 (ア) 公職者(首長や議会議員)は投票で決めるのが本じであるのに、投票なしに決まるのはおかしい
	40.0 (イ) 定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になんて仕方がない
	9.1 (ウ) 選挙のわづらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい
	0.7 (エ) その他 (ホ)
	9.4 わ か ら な い

Q45. [回答票 29] 地方議会の議員の定数についてあなたはどう思われますか。

N=2223	22.5 (ア) 現状でよい	54.2 (イ) 減らしたほうがよい	0.9 (ウ) 増やしたほうがよい	9.4 (エ) 一概にいえない	13.0 (オ) わ か ら な い
	(ア) 現状でよい	(イ) 減らしたほうがよい	(ウ) 増やしたほうがよい	(エ) 一概にいえない	(オ) わ か ら な い

[VI 政治・選挙一般について]

では、4月に行われた統一地方選挙をはなれて、政治や選挙一般についてのご意見をいくつかお伺いしたいと存じます。

Q46. 日本の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じをお持ちになりますか。

N=2223	0.2	13.5	55.4	19.5	7.6	3.7
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q47. あなたの県(都・道・府)の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じをお持ちになりますか。

N=2223	0.5	30.7	39.7	8.5	12.4	8.2
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q48. あなたの市(区・町・村)の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じをお持ちになりますか。

N=2223	0.7	34.5	37.2	8.1	13.5	6.0
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q49. 【回答票 30】あなたの住んでいる地域(市区町村ぐらいの範囲)について、あなたはどのようにお考えですか。この中から1つだけあげてください。

N=2223	26.1 (ア)	地域社会として活気があり、住み心地もよい
	6.7 (イ)	地域社会として活気があるが、住み心地はよくない
	52.9 (ウ)	地域社会として活気がないが、住み心地はよい
	8.4 (エ)	地域社会として活気がなく、住み心地もよくない
	3.3	どれにも当たらない
	2.7	わからない

Q50. 【回答票 31】あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。

N=2223	4.9	53.2	19.8	17.6	4.2	0.3
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	大きい	だいたい	どちらでもない	やや	大きい	わからない
	満足している	満足している		不満足である	不満足である	

Q51. 【回答票 31】あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。

N=2223	0.1	10.1	22.4	44.8	19.5	3.0
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	大きい	だいたい	どちらでもない	やや	大きい	わからない
	満足している	満足している		不満足である	不満足である	

Q52. 【回答票 32】ここに6つの選挙があげてありますが、あなたがとくに関心をお持ちになる選挙を2つあげてください。(2 M. A.)

N=2223	41.8 (ア)	衆議院議員選挙	40.8 (オ)	市(区・町・村)長選挙
	11.4 (イ)	参議院議員選挙	34.1 (カ)	市(区・町・村)議會議員選挙
	25.7 (ウ)	知事選挙	9.9	どれも関心を持たない
	13.6 (エ)	県(都・道・府)議會議員選挙	2.9	わからない

Q53. [回答票 33] 選挙のある、なしにかかわらず、いつも政治に関心をもっている人もいますし、そんなに関心をもたない人もいます。あなたは政治上でのできごとに、どれくらい注意を払っていますか。この中ではどれにあたりますか。

N=2223 19.8 38.1 33.7 7.7 0.8

(ア) (イ) (ウ) (エ)

いつも 時々 たまに 全く わからない
注意を払っている 注意を払っている 注意を払っている 注意していない

Q54. [回答票 34] 投票に行くことについて、あなたのお気持ちに近いものをこの中から 1 つあげてください。

N=2223 53.2 (ア) 投票に行くことは有権者の義務であり、当然、選挙に行かなくてはならない

32.7 (イ) 有権者はできるだけ選挙に参加した方がよい

12.5 (ウ) 投票に行くかどうかは有権者が決めることなので、必ずしも選挙に参加しなくともよい

1.6 わからない

Q55. あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。

N=2223 27.9 自由民主党 2.4 日本共産党 0.1 保守新党 52.5 支持政党なし
4.5 民主党 0.7 自由党 0.3 その他() 6.3 わからない
3.8 公明党 1.5 社会民主党



SQ1. 強く支持されていますか、それほどでもありませんか。

N=916 24.6 強く支持している

74.0 それほどでもない

1.4 わからない

SQ2. あなたは、支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。あればあげてください。

N=1307 9.2 自由民主党

5.1 民主党

1.1 公明党

1.3 日本共産党

1.0 自由党

0.7 社会民主党

- 保守新党

0.1 その他()

67.3 支持政党なし

14.3 わからない

[全員に]

Q56. [回答票 35] 投票時間は午後 8 時までになりましたが、このことについて、あなたは、どうお感じになりましたか。この中からあげてください。

N=2223 64.8 (ア) 午後 8 時までになったので投票に行きやすくなかったと思う

26.9 (イ) 午後 6 時まででもかわらない

2.9 (ウ) もっと延長してほしい

1.1 その他()

4.2 わからない

Q57. [回答票 36] 平成 10 年 6 月以降の選挙から不在者投票制度が変更されたことについて、あなたはどのようにお考えですか。この中から 1 つだけあげてください。

N=2223 67.6 (ア) 投票しやすくなったと思う

6.2 (イ) 投票しやすくなったとは思わない

0.6 その他()

25.6 わからない

Q58. 政治家が、選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となりますか、あなたはご存じでしたか。

N=2223	91.6	5.4	3.0
知っていた	知らなかつた	わからない	

Q59. [回答票 37] 政治家が、次に掲げるものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。罰則をもって禁止されている寄附にあたると思うものをこの中でいくつでも結構ですからあげてください。(M. A.)

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| N=2223 | 76.0 (ア) お歳暮やお中元 |
| | 63.1 (イ) 入学祝・卒業祝 |
| | 34.1 (ウ) 政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝 |
| | 42.5 (エ) 秘書等が代理で出席する場合の結婚祝 |
| | 50.6 (オ) 葬式の花輪、供花 |
| | 31.8 (カ) 政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典 |
| | 40.9 (キ) 秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典 |
| | 52.8 (ク) 落成式、開店祝の花輪 |
| | 50.4 (ケ) お祭りへの寄附や差し入れ |
| | 48.3 (コ) 地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ |
| | 54.1 (サ) 町内会の集会や旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ |
| | 40.0 (シ) 病気見舞 |
| | 14.0 わからない |

Q60. あなたの県（都・道・府）またはあなたの住んでいる市（区・町・村）に、選挙を明るくきれいにならせるために、選挙管理委員会や社会教育関係と協力して活動を行っている、明るい選挙推進協議会（白ばら会等）があることをご存じですか。

N=2223	31.2	66.0	2.8
知っている	知らない	わからない	

→ (フェース・シートへ)

S Q. 明るい選挙推進協議会（白ばら会等）の行っている講演会、話し合い活動、学級講座などに参加されたことがありますか。

3.2	27.8	0.2
ある	ない	わからない

[フェース・シート]

ご意見をお伺いするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

F 1. (性)

N=2223	44.3	55.7
男 性	女 性	

F 2. (年齢) あなたのお年は満でおいくつですか。

(記入)

--	--

 歳

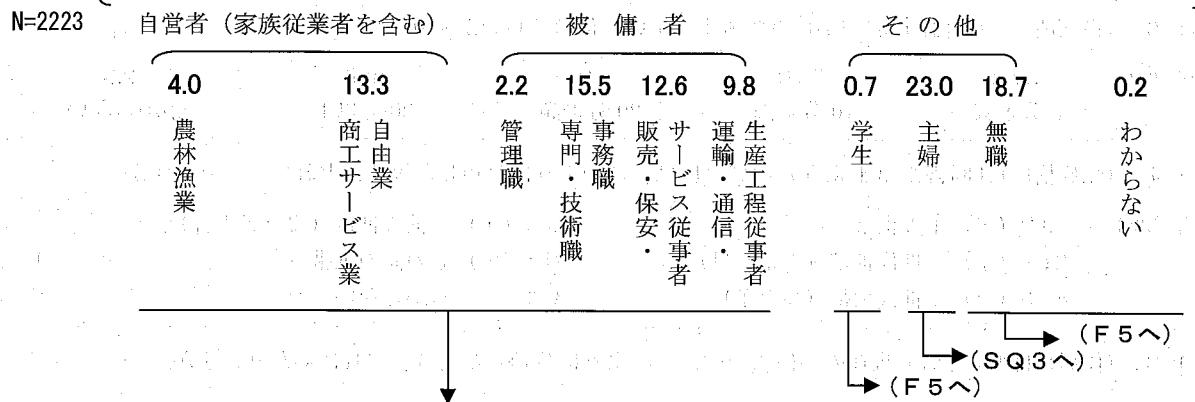
N=2223	4.0	6.5	14.2	15.6	21.9	22.0	15.8
	20~24 歳	25~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70 歳以上

F 3. (学歴) あなたは学校はどこまでいらっしゃいましたか。(在学中・中退は卒業とみなす)

N=2223	18.8	48.1	16.7	15.2	0.6	0.6
	小・高小・ 新中卒	旧中・新高卒	新高専・短大・ 専修学校卒	旧高専大・新大卒 (修・博) 卒	大学院	わからない

F 4. (本人職業) あなたのご職業は何ですか (どんな仕事をなさっているのですか。ご自分で経営していらっしゃるのですか。勤めていらっしゃるのですか)。

※いわゆる主婦であっても、家の職業を手伝っている場合は家族従業の方に入れる
(具体的に記入)



S Q 1. [回答票 38] このように分類した場合、どれにあたりますか。

N=1277	6.8 (ア) 公務	1.4 (ケ) 不動産業
	0.2 (イ) 鉱業	1.2 (コ) 新聞・放送・出版業・広告業・映画製作業
	9.5 (ウ) 建設業	2.8 (サ) 情報・通信サービス業
	17.9 (エ) 製造業	6.0 (シ) 医療・福祉サービス業
	1.8 (オ) 電気・ガス・熱供給・水道業	3.0 (ス) 教育・研究サービス業
	3.4 (カ) 運輸業	0.5 (セ) 法律・会計サービス業
	22.2 (キ) 卸売・小売業・飲食店	12.9 (ソ) その他のサービス業
	3.2 (ク) 金融・保険業	7.1 その他 ()

S Q 2. [回答票 39] 失礼ですが、あなたの収入は月平均手取りでどのくらいですか。(年間の手取り収入を月割りにすると、この中のどのへんでしょうか、だいたいのところで結構です)。

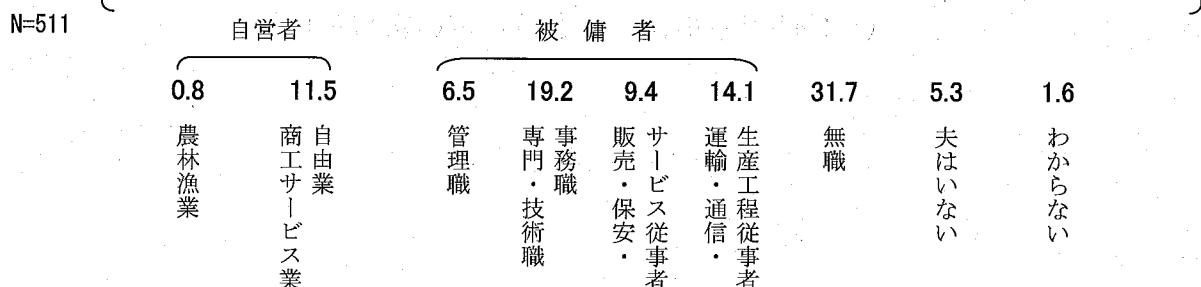
N=1277	15.7 (ア) 10万円未満	6.0 (オ) 40万円以上
	19.8 (イ) 10万円以上	6.0 (カ) 50万円以上
	20.3 (ウ) 20万円以上	6.1 収入不定
	13.6 (エ) 30万円以上	12.5 わからない

[S Q 2 を聞いたら F 5 へ]

(F 4 で「8. 主婦」と答えた人に)

S Q 3. あなたの主人の職業は何ですか。

(具体的に記入)



〔全員に〕

F 5. (居住年数) あなたは、この市（区・町・村）に何年ぐらい住んでいますか。

N=2223	6.5 3年未満	11.7 3年以上	15.9 10年以上	65.6 20年以上	0.2 わからない (生まれてからずっと)
--------	-------------	--------------	---------------	---------------	-----------------------------

F 6. (投票所までの距離) お宅から投票所まで歩いて何分ぐらいかかりますか。

N=2223	37.0 5分未満	35.0 10分未満	19.1 20分未満	6.6 20分以上	2.3 わからない
--------	--------------	---------------	---------------	--------------	--------------

F 7. (家族構成) [回答票 40] あなたのご家族は、どのように分類した場合、どれにあたりますか。

N=2223	8.0 (ア) 1人世帯	19.5 (エ) 三世代世帯（親と子と孫）
	21.9 (イ) 一世代世帯（夫婦だけ）	0.7 (オ) その他の世帯（）
	49.5 (ウ) 二世代世帯（親と子）	0.4 わからない

F 8. (住居) [回答票 41] 現在のお住まいは、どのように分類した場合、どれにあたりますか。

N=2223	75.9 (ア) 自分の家（一戸建て）	6.0 (イ) 自分の家（共同住宅、分譲マンションなど）
	5.0 (ウ) 公営、公団、公社の賃貸住宅	10.5 (エ) 民間の賃貸住宅（貸家、アパート、マンションなどすべてを含む）
	2.1 (オ) 勤め先の給与住宅（社宅、寮、公務員住宅など）	0.3 (カ) その他（）
	0.2 わからない	0.2 わからない

F 9. (愛着度) [回答票 42] あなたは、この市（区・町・村）にどの程度愛着を感じていますか。この中からお答えください。

N=2223	26.9 (ア) 非常に愛着を感じている	7.8 (エ) あまり愛着を感じていない
	40.4 (イ) かなり愛着を感じている	1.2 (オ) まったく愛着はない
	22.6 (ウ) どちらともいえない	1.0 わからない

F 10. (所属団体) [回答票 43] あなたは、このような団体に加入していますか。あればいくつでも結構ですか
らあげてください。(M. A.)

N=2223	47.6 (ア) 自治会	4.1 (ク) 商工業関係の経済団体
	6.0 (イ) 婦人会	3.2 (ケ) 宗教団体
	2.2 (ウ) 青年団・消防団	14.6 (コ) 同好会・趣味のグループ
	7.5 (エ) 老人クラブ（会）	1.2 (サ) 住民運動・消費者運動・市民運動の団体
	7.6 (オ) P T A	0.7 その他（）
	3.7 (カ) 農協その他の農林漁業団体	33.2 どれにも加入していない
	3.5 (キ) 労働組合	1.0 わからない

(長い間どうもありがとうございました)

IV 調査結果の概要

1 はじめに

平成15年4月13日に都道府県と政令指定都市において、また4月27日には市区町村において、第15回統一地方選挙(以下、統一地方選挙を「統一選」という)が実施された。昭和22年4月の第1回統一選では、戦後の新しい地方自治制度の発足に伴い全ての地方公共団体の首長と議員の選挙が全国一斉に実施された。その後、市町村の合併、首長の死亡や辞職、議会の解散などにより、統一選での選挙の実施率は下がってきてはいるが、今回でも全国3,257の地方公共団体のうち、約57.4%に当たる1,868団体で、首長または議員の選挙が行われた。

本報告書は、統一選直後に、財団法人明るい選挙推進協会が実施した全国世論調査のデータの分析から、今回の統一選における各種選挙の実態と全国規模の選挙としての性格に着目して、有権者の政治的動向の一端を分析したものである。より具体的には、今回の統一選における、有権者の投票・棄権行動、選挙関心度、投票傾向、投票・棄権の理由、投票決定時期、政党支持と投票、選挙関連情報源、選挙のあり方、政治一般の評価、後援会加入の実態、明るい選挙推進諸活動、などを分析した。明るい選挙推進協会は、これらのテーマについて同じ質問を、従来の調査でも継続しているので、時系列的な分析が可能である。

2 選挙結果から

(1) 投票率

今回の統一選における投票率を図1で見てみよう。ここでいう投票率とは、総務省が発表している選挙結果の数字であり、本調査の結果から得たものではない。投票率が比較的高かったのは、町村議選と町村長選でそれぞれ77.72%と77.52%であった。逆に低かったのは、特別区議選43.23%、特別区長選43.55%、指定都市市議選47.70%で、50%にも達していない。その他の選挙は50%台で、都道府県知事選52.63%、指定都市市長選57.32%、市長選57.00%、道府県議選52.48%、市議選56.74%である。町村議選と町村長選の投票率が高いことからわかるように、都市部ほど投票率が低い。

統一選における投票率の推移を、図2-1で知事選、都道府県議選、市区町村長選、市区町村議選に分けて見てみよう。この図からわることは、前回(平11)の選挙では投票率が少し上昇していたのだが、今回は4選挙すべてにおいて、過去最低の投票率

図1 第15回統一選の投票率

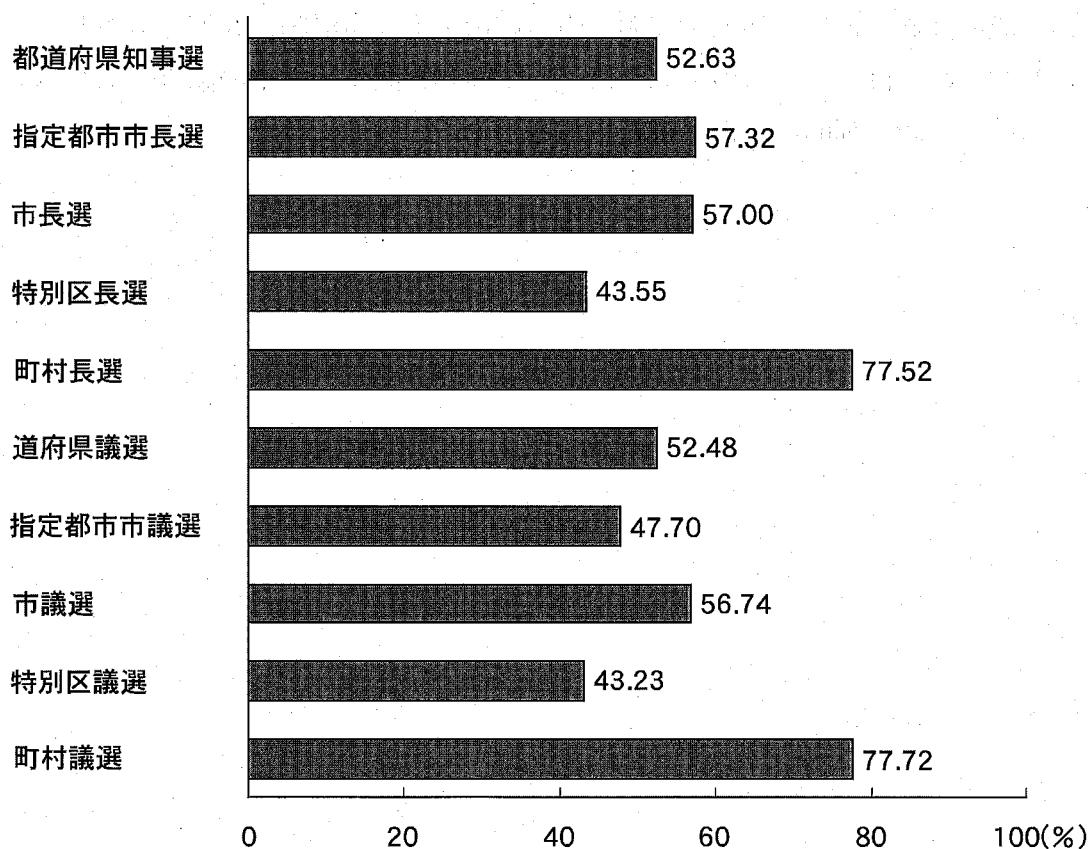
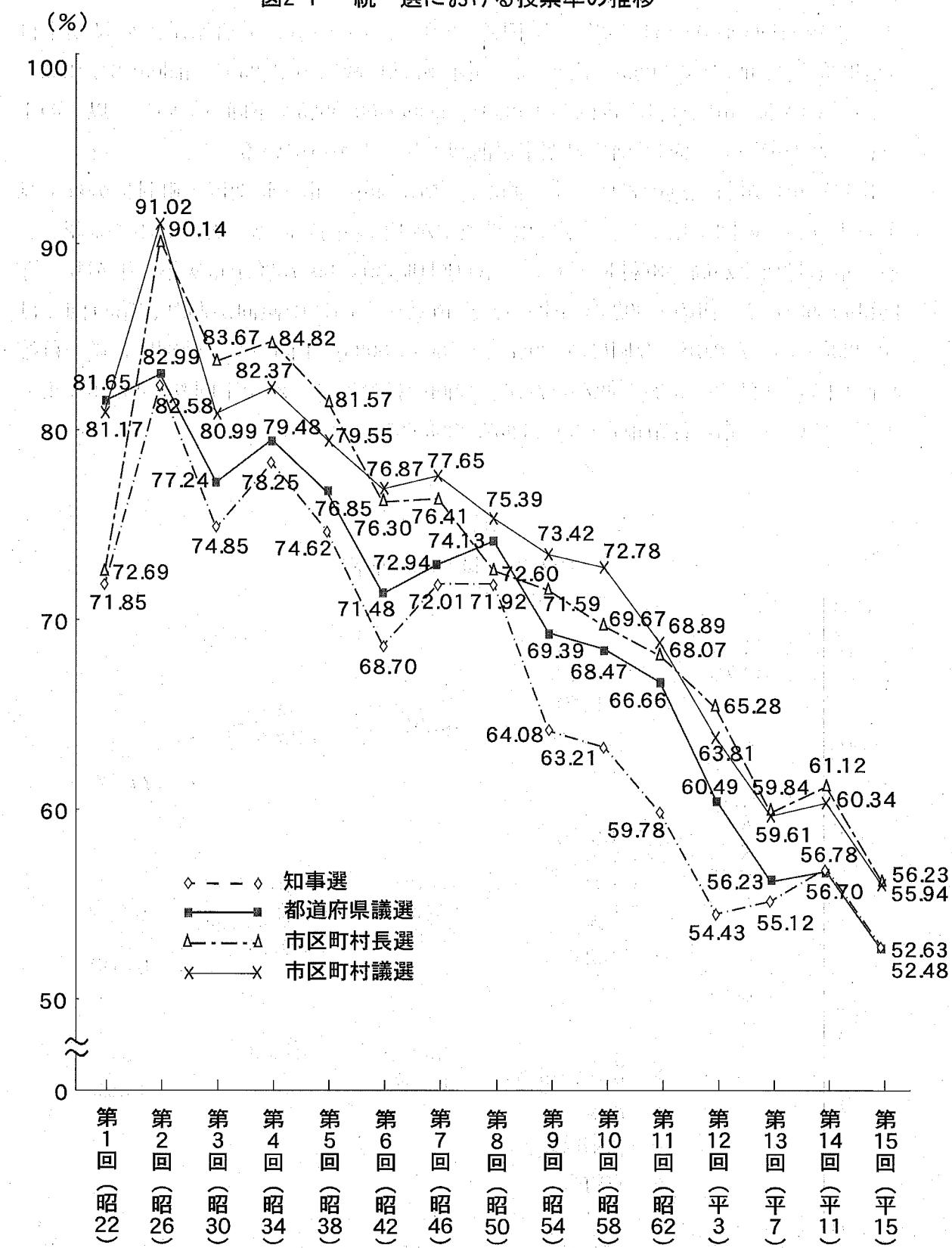


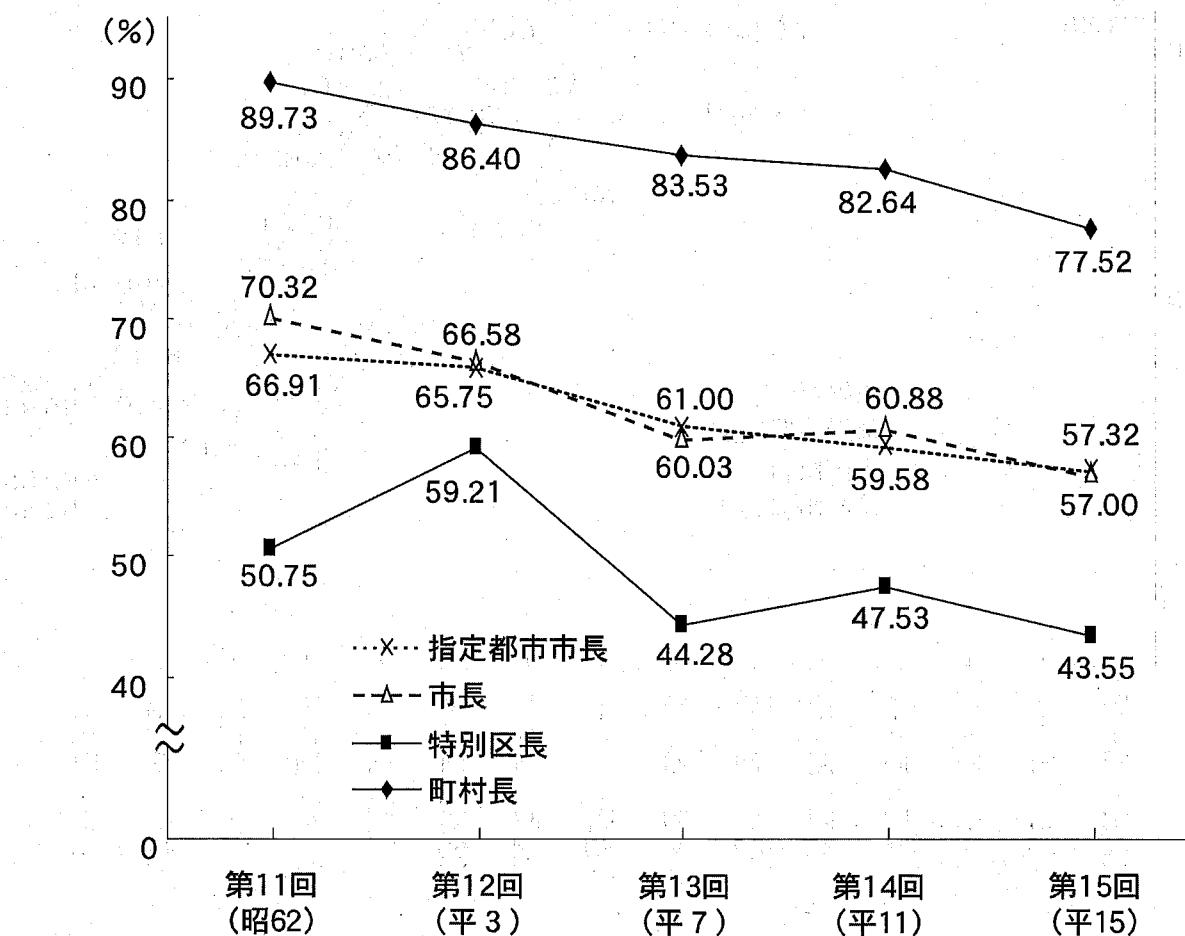
図2-1 統一選における投票率の推移



になったということである。知事選の投票率は52.63%で、前回の56.78%を下回り、また、第12回(平3)の54.43%をも下回ってしまっている。道府県議選の投票率は52.48%で、前回の56.70%を下回った。市区町村長選は56.23%で、前回の61.12%を下回っている。市区町村議選は55.94%で、前回の60.35%を下回っている。以上のように、どの選挙でも約4%前後投票率が前回よりも下がっている。

次に、市区町村長選の投票率を、図2-2で指定都市・市・特別区・町村に分けて見てみよう。この図を見ると、全体的に投票率が下降傾向にあることが改めて確認できる。最も投票率が高い町村長選でも、第11回(昭62)の89.73%から次第に下がり、今回は77.52%で、初めて80%を下回った。市長選も同様の傾向があり、第11回では70.32%であったのが、今回は57.00%で、初めて60%を下回った。特別区長選では第13回(平7)で既に44.28%と低かったが、今回の投票率はそれを下回り、43.55%まで下がっている。指定都市市長選は今回57.32%である。

図2-2 投票率の推移



(2) 選挙競争率

今回の統一選における平均競争率を、表1で選挙の種類別に見てみよう。このデータも総務省が発表しているデータである。競争率は、立候補者数を改選定数で割ったものである。競争率が高かったのは、指定都市市長選の7.0と都道府県知事選の4.2である。競争率が低かったのは、町村長選1.6、道府県議選1.5、指定都市市議選1.4、市議選1.2、特別区議選1.3、町村議選1.1であり、競争率が2.0にも達していない。その他は、特別区長選の3.2、市長選の2.5となっている。この表から言えることは、議員選挙および町村長選の競争率が低いということである。このことは、無投票当選率を見ても明らかである。町村長選においては、51.0%で候補者が一人しかおらず無投票当選であった。また、町村議選の23.3%および道府県議選の19.5%も、改選定数と立候補者数が同数で無投票当選している。

表1 選挙競争率

選挙種別	競争率	改選定数	立候補者数	無投票当選率(%)
都道府県知事選	4.2	11	46	9.1
指定都市市長選	7.0	1	7	0.0
市長選	2.5	118	290	10.2
特別区長選	3.2	14	45	0.0
町村長選	1.6	541	878	51.0
道府県議選	1.5	2,634	3,854	19.5
指定都市市議選	1.4	831	1,159	3.7
市議選	1.2	10,218	12,028	2.7
特別区議選	1.3	837	1,102	0.0
町村議選	1.1	17,563	19,298	23.3

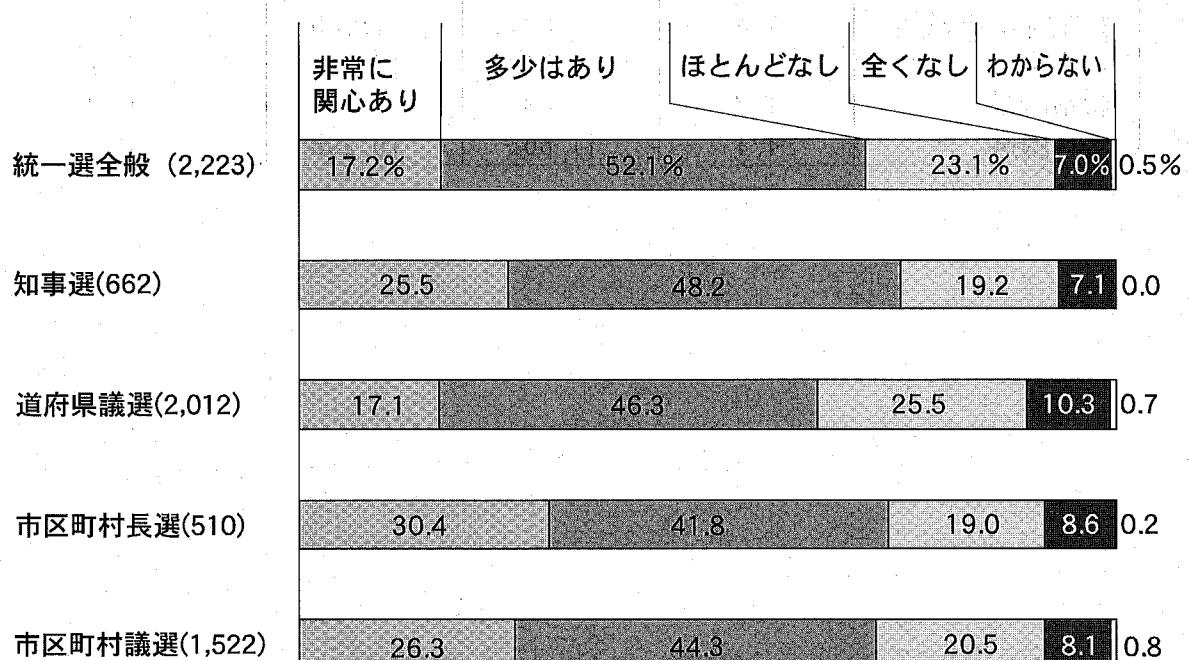
3 選挙関心度

本調査では、統一選への関心度について5つの質問をしているので、それぞれの回答を図3で見てみよう。まず最初に、「今回の統一選について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか」という質問に対して、17.2%が「非常に関心をもった」、52.1%が「多少は関心をもった」と回答しており、合計で約70%がある程度の関心を持っていたことがわかる。「ほとんど関心をもたなかつた」は23.1%、「全く関心をもたなかつた」は7.0%であった。この質問は、調査対象者全員に対して行われた。

次に、選挙の種類別に関心度を見てみよう。それぞれの質問は、その選挙が行われた地域の対象者にのみされている。知事選は、25.5%が「非常に関心をもった」、48.2%が「多少は関心をもった」と回答しており、合計で73.7%になる。道府県議選に関しては、知事選よりも関心度が低い。「非常に関心をもった」が17.1%、「多少は関心をもった」が46.3%で、合計で63.4%となっている。市区町村長選では、「非常に関心をもった」が30.4%と、他の選挙よりも割合が高いところが特徴である。

「多少は関心をもった」は41.8%であり、「非常に関心をもった」と合わせると、71.2%となる。市区町村議選では、26.3%が「非常に関心をもった」、44.3%が「多少は関心をもった」と回答しており、合計で70.6%である。全体的に「非常に関心をもった」と回答した割合を比較してみると、議員選挙よりも首長選挙の方が関心度が

図3 選挙関心度



高く、また、都道府県の選挙よりも市区町村の選挙の方が関心度が高いことがわかる。

次に、国政選挙も含めて、どの選挙に対して最も関心をもっているのかを、表2で見てみよう。本調査では、「ここに6つの選挙があげてありますが、あなたがとくに関心をお持ちになる選挙を2つあげてください」という質問をしている。この結果から明らかなことは、衆院選41.8%と市区町村長選40.8%に関心を持っている人が最も多く、どちらも40%を超えており、その次に関心度が高いのが、市区町村議選の34.1%と知事選の25.7%となっている。逆に最も関心が低いのが、参院選11.4%と都道府県議選13.6%であり、どちらも15%以下である。最後に、どの選挙にも関心を持っていない有権者も9.9%いる。

表2 関心のある選挙

種類	%
衆議院議員選挙	41.8
市(区町村)長選挙	40.8
市(区町村)議会議員選挙	34.1
知事選挙	25.7
県(都道府)議会議員選挙	13.6
参議院議員選挙	11.4
どれも関心を持たない	9.9
わからない	2.9

4 投票傾向

(1) 社会的属性と投票傾向

次に投票傾向が社会的属性によって、どのような違いがあるかを見てみよう。ここで言う投票傾向とは、本調査の回答者のうちで「投票した」と回答した有権者の割合である。世論調査において「投票した」と回答する割合は、実際の投票率から、ある程度の乖離があることがわかっている。質の高い世論調査においても、「投票した」と回答する割合の方が、実際の投票率よりも常に高い。その主な理由は、世論調査に協力的な人ほど、投票率が高い傾向が強いからだと思われる。

ここでは、実施率が最も高かった道府県議選の投票傾向に焦点を当て、図4で社会的属性との関係を調べていく。まず、全体の投票傾向を見てみると、道府県議選が実施された地域の回答者の75.3%が「投票した」と回答している。実際の投票率が52.48%なので、約20%の乖離があることがわかる。したがって、以下の分析では、この程度の乖離があることを考慮して、見ていく必要がある。

年齢別の投票傾向の違いを見てみると、20歳代が最も低く45.5%となっている。30歳代では、20歳代よりも高いがそれでも63.2%と比較的低い。40歳・50歳代で70%を超える、60歳以上では80%を超えており。明らかに、年齢が高くなるごとに、投票傾向は強くなる。ただし、70歳以上は、60歳代より少し下がっている。

次に最終学歴の影響を、年齢別に見てみよう。時代によって進学率が大幅に異なるので、最終学歴の影響は、年齢別に見ることが大切である。年齢は、40歳未満、40歳・50歳代、60歳以上の3つに分類している。まず、40歳未満の投票傾向は、中学・高校卒が50.5%、高専・短大卒が56.8%、大学・大学院卒が65.3%となっており、高学歴ほど投票傾向が強いという結果が出ている。政治・社会について学校で学んだ知識量の違い、ならびに、学歴差からくる社会進出度の違いから、政治および選挙に対する意識の差が生じているのかもしれない。しかし、40歳・50歳代および60歳以上のカテゴリーでは、学歴の影響の差はほとんどないと言えるだろう。これは、年齢とともに投票傾向が強くなるので、学歴の影響の差は年令が高くなるにつれ縮まっていくことを意味している。

次に性別の違いを見てみると、男性の77.5%、女性の73.5%が「投票した」と回答しており、男性の方が高い。しかし、道府県議選の実際の投票率は、男性が51.05%、女性が53.81%なので、女性の方が高い。したがって、世論調査の投票傾向の男女差は、サンプルの誤差であると言わなければならぬ参考にならない。

職業と投票傾向の関係を見てみると、農林漁業92.3%、商工サービス・自由業87.8%の投票傾向が比較的高いことがわかる。農林漁業の投票傾向が高いのは、都市化が進んでいない地域が多いということと、平均年齢の高さ、国の農林漁業保護政策

図4 社会的特徴と投票・棄権

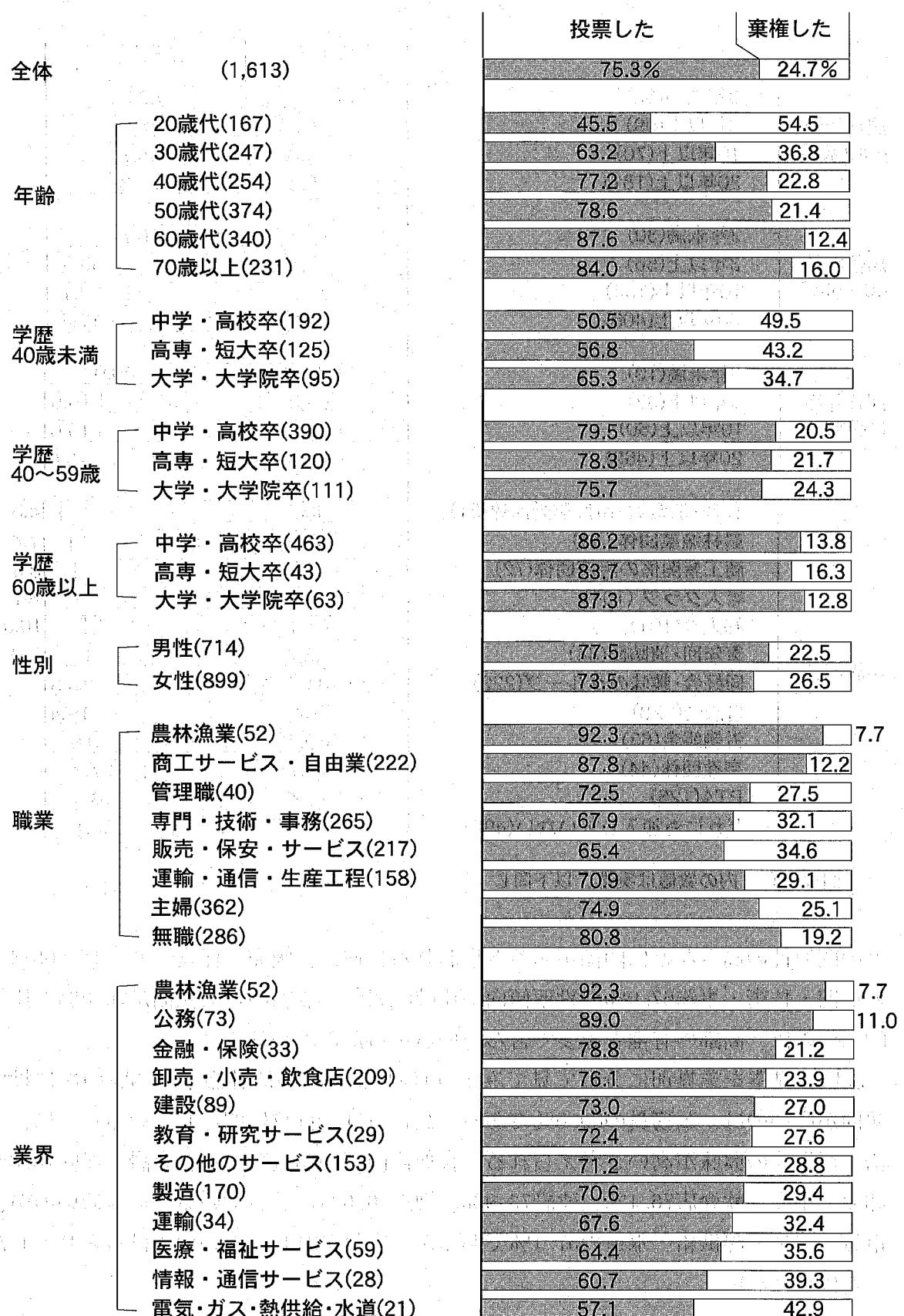
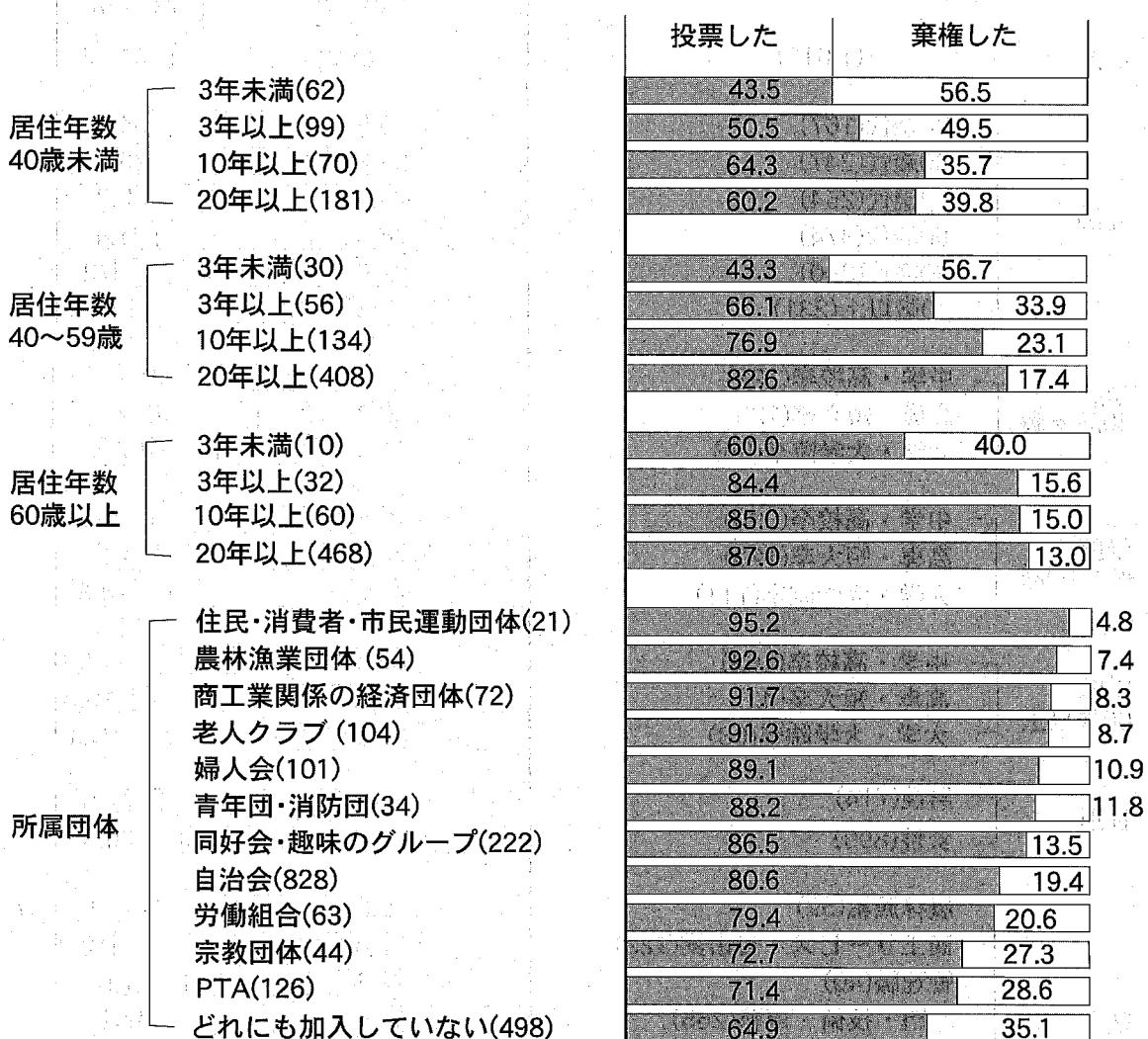


図4 続き



※ 図表の()内の数値は実数、以下同じ

との関連性の高さなどに関係があると思われる。逆に、販売・保安・サービス65.4%と専門・技術・事務67.9%の投票傾向が比較的弱い。無職の投票傾向が80.8%と比較的高いのは、高齢の有権者を多く含んでいるからだと思われる。

次に、職業を業界別に分けて見てみよう(注1)。前述の農林漁業92.3%の次に投票傾向が高いのは、公務員の89.0%である。公務員は、行政に関係しているために、政治・選挙への興味が高いと考えられる。投票傾向が70%台なのが、金融・保険78.8%、卸売・小売・飲食店76.1%、建設73.0%、製造70.6%となっている。最も低いのが、電気・ガス・熱供給・水道の57.1%であるが、実数が21しかないのではつきりとしたことは言えない。

居住年数の影響を、年齢別に見てみよう。本調査では、「あなたは、この市(区・町・村)に何年ぐらい住んでいますか」という質問をしている。その回答と投票傾向を分析してみると、どの年代においても、居住年数が長いほうが、投票傾向が強くなっている。40歳未満では、3年未満の投票傾向は43.5%、3年以上で50.5%となり、10年以上と20年以上は60%を超えており、40歳・50歳代では、3年未満では43.3%と極端に低く、3年以上66.1%、10年以上76.9%、20年以上82.6%とスムーズに伸びている。60歳以上では、3年未満が60.0%と低いが、その他は80%以上で安定している。以上のことから、引越しなどに伴って、その地域での居住年数が短いと、その地域の情報が足りないことや社会との関係が薄いことから、投票傾向が弱くなると推論できる。

最後に、所属団体と投票傾向を見てみよう。投票傾向が90%以上の団体は、住民・消費者・市民運動団体95.2%(注2)、農林漁業団体92.6%、商工業関係の経済団体91.7%である。PTAは、71.4%でここに列挙されている団体では最も投票傾向が低い。一つ注目すべきは、「どれにも加入していない」有権者で、投票傾向は64.9%である。団体に所属することは、社会や政治に関する情報を得るきっかけとなり、それが投票傾向を強くすると考えられる。

注1 鉱業は実数が3しかなかったので除外。他のサービス業には、不動産業、新聞・放送・出版業・広告業・映画製作業、法律・会計サービス業を含んでいる。

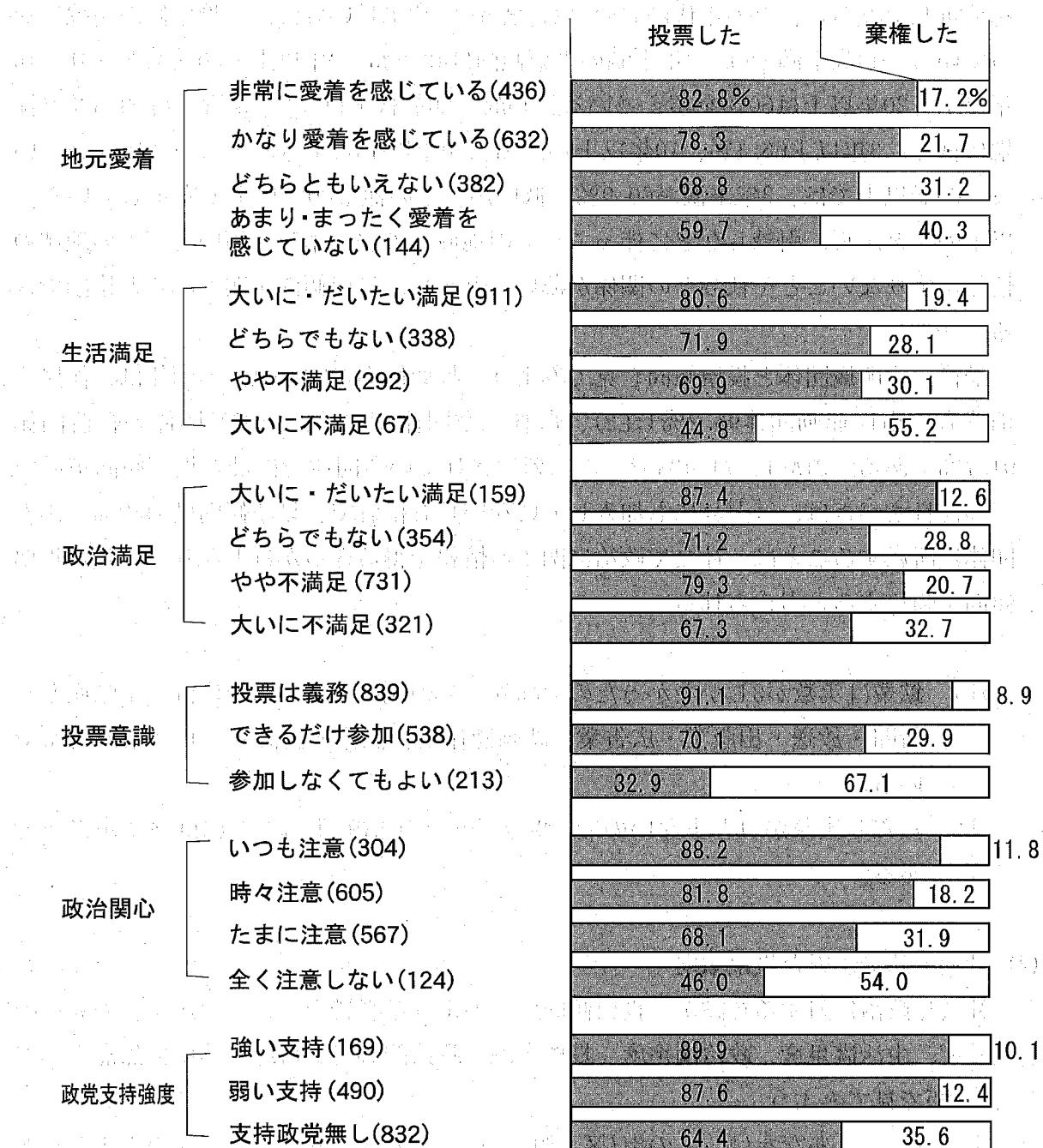
注2 ただし実数が21と少ないので、%をそのまま信頼することには注意が必要である。

(2) 社会・政治意識と投票傾向

社会や政治に対する意識が、投票傾向にどのような影響を与えるのかを、地元への愛着度、生活満足度、政治満足度、投票意識、政治関心、支持政党強度に焦点をあてて、図5を見てみよう。

本調査は、「あなたは、この市(区・町・村)にどの程度愛着を感じていますか」という質問をし、愛着度を測っている。「あまり」または「まったく」愛着を感じていない回答者の投票傾向は、最も低く59.7%である。愛着度が高くなるほど投票傾向が高くなって、「非常に」愛着を感じている有権者の投票傾向は、82.8%である。明らかに、地元愛着度は投票傾向に影響している。

図5 社会・政治意識と投票・棄権



生活満足度とも、連関が強い。「あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」という質問に対し、「大いに不満足」と回答した有権者の投票傾向は44.8%と極端に低く、逆に「大いに」または「だいたい」満足している有権者の投票傾向は80.6%と高い。生活に不満足な有権者は、投票有効性感覚が弱い、または、社会との疎外感が高いために、投票傾向が弱いのだろうと考えられる。

政治満足度と投票傾向の関係は、生活満足度のそれほどはっきりとはしていない。「大いに不満足」の67.3%しか投票していないのに対して、「大いに」「だいたい満足」の87.4%が投票しているので、確かに関係が見られる。ただし、「やや不満足」79.3%の方が、「どちらでもない」71.2%よりも投票傾向が強く、直線的ではない。

本調査では、投票の意識について次のような質問をしている。「投票に行くことについて、あなたのお気持ちに近いものをこのうちから1つあげてください。(ア)投票に行くことは有権者の義務であり、当然選挙に行かなくてはならない、(イ)有権者はできるだけ選挙に参加した方がよい、(ウ)投票に行くかどうかは有権者が決めることなので、必ずしも選挙に参加しなくてもよい」。この質問に対して、「投票は義務」と回答した人の91.1%、「できるだけ参加」と回答した人の70.1%、「参加してなくてもよい」と回答した人の32.9%が投票している。明らかに、投票への意識が投票行動に影響しており、投票義務感を向上することができれば、投票傾向の上昇に貢献するであろうと思われる。

政治関心度と投票傾向の関係を次に見てみよう。本調査では、「あなたは政治上のできごとに、どれくらい注意を払っていますか」という質問をしている。その回答と投票傾向の関係を見てみると、「いつも注意を払っている」の88.2%、「時々注意を払っている」の81.8%、「たまには注意を払っている」の68.1%、「全く注意していない」の46.0%が投票しており、政治関心度と投票傾向には正の相関がある。政治関心度を高める工夫ができれば、投票傾向を上昇させることができると推測できる。

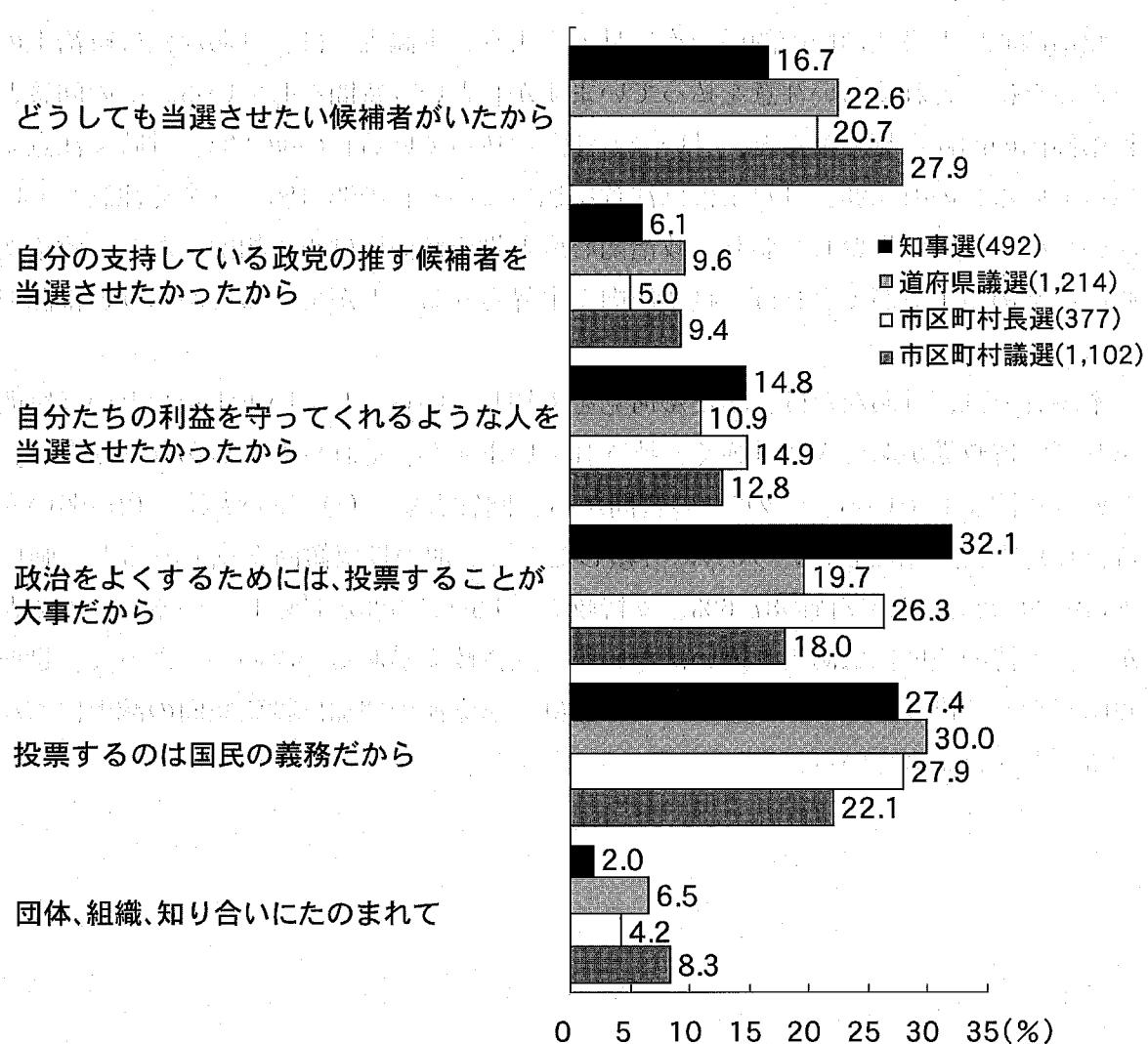
本調査では、「あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか」という質問をし、支持政党がある人に「強く支持されていますか、それほどでもありませんか」という質問をしている。この2つの質問から、回答者を、(1) 強い支持、(2) 弱い支持、(3) 支持政党なしという3つに分類した。分類別の投票傾向を見てみると、強い支持の89.9%、弱い支持の87.6%、支持政党なしの64.4%が投票している。これから、支持の強度にはあまり違いはないが、支持政党があるかないかによって、投票傾向が大きく違うことがわかる。このことは、無党派の増加は投票傾向の減少につながることを物語っている。

5 投票・棄権の理由、投票決定時期

本調査では、知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選のそれぞれについて、「投票に行かれたのはどういう気持ちからですか」という質問をし、その回答として6項目の中から1つだけ選んでもらっている。その回答をグラフにまとめたのが図6である。

知事選での投票理由は、「政治をよくするため…」32.1%が最も多く、次に「…義務だから」の27.4%である。道府県議選では、「…義務だから」30.0%が最も高く、「…当選させたい候補者がいたから」22.6%が次に多い。市区町村長選では、「…義務だから」27.9%と「政治をよくするため…」26.3%が高い。市区町村議選では、「…当選させたい候補者がいたから」が27.9%、「…義務だから」の22.1%となっており、投票理由としては、道府県議選と市区町村議選が似ている。

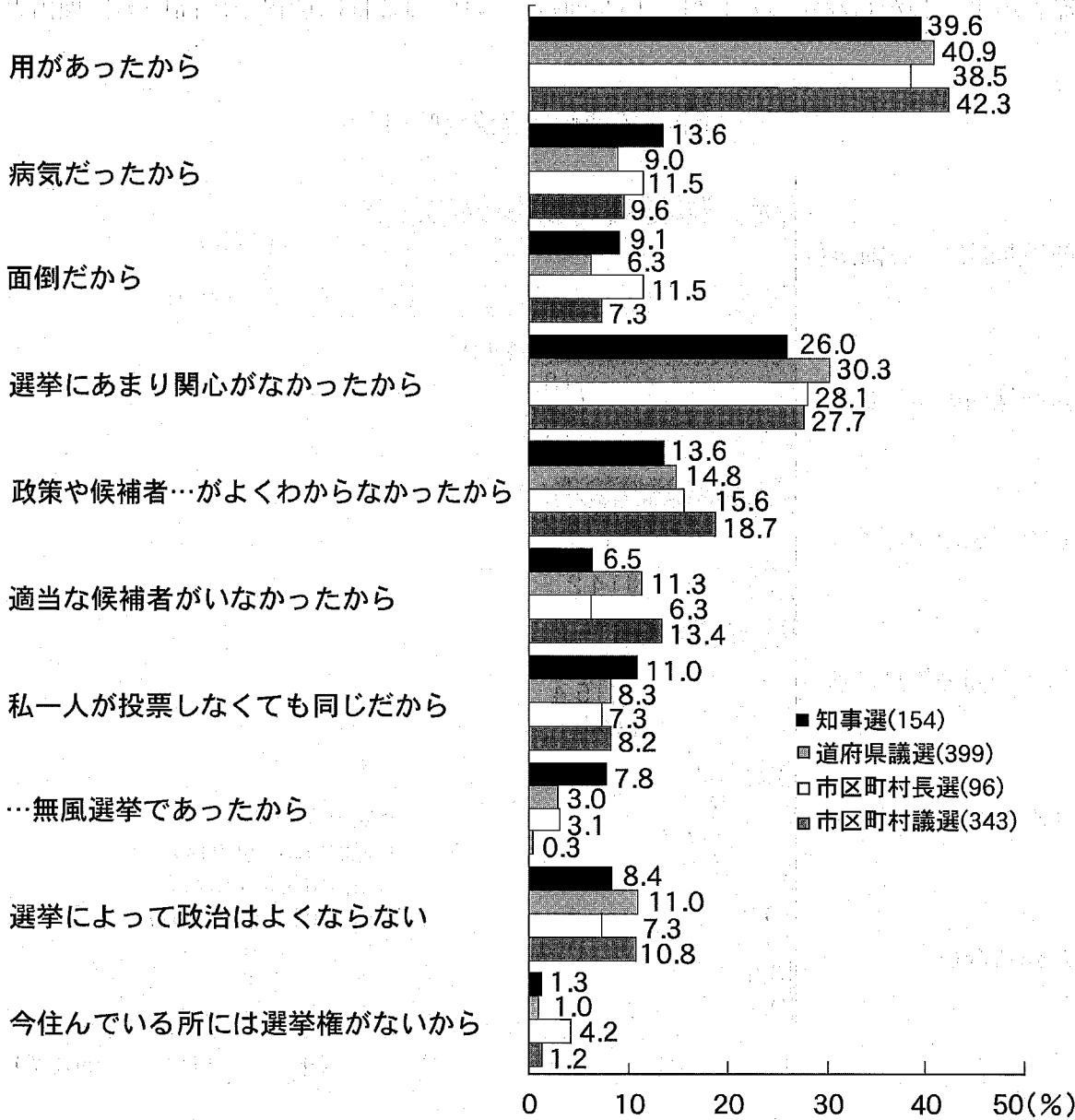
図6 投票理由



いる。以上のように、どの選挙においても、「…義務だから」という理由は上位2つの理由に入っている。また、首長選挙においては、「政治をよくするため…」という理由が上位に入り、また、議員選挙においては、「…当選させたい候補者がいたから」という理由が上位に入ることがわかる。

次に選挙を棄権した理由を、図7で選挙の種類別に見てみよう。これは、投票棄権者に「…選挙で投票しなかったのはなぜですか」という質問をして、10項目から当てはまるものすべてを選んでもらっている。この10の項目を意味的に大きくわけると、次の4つに大きく分類できる。(1) やむをえない棄権：「用があった」、「病気」、

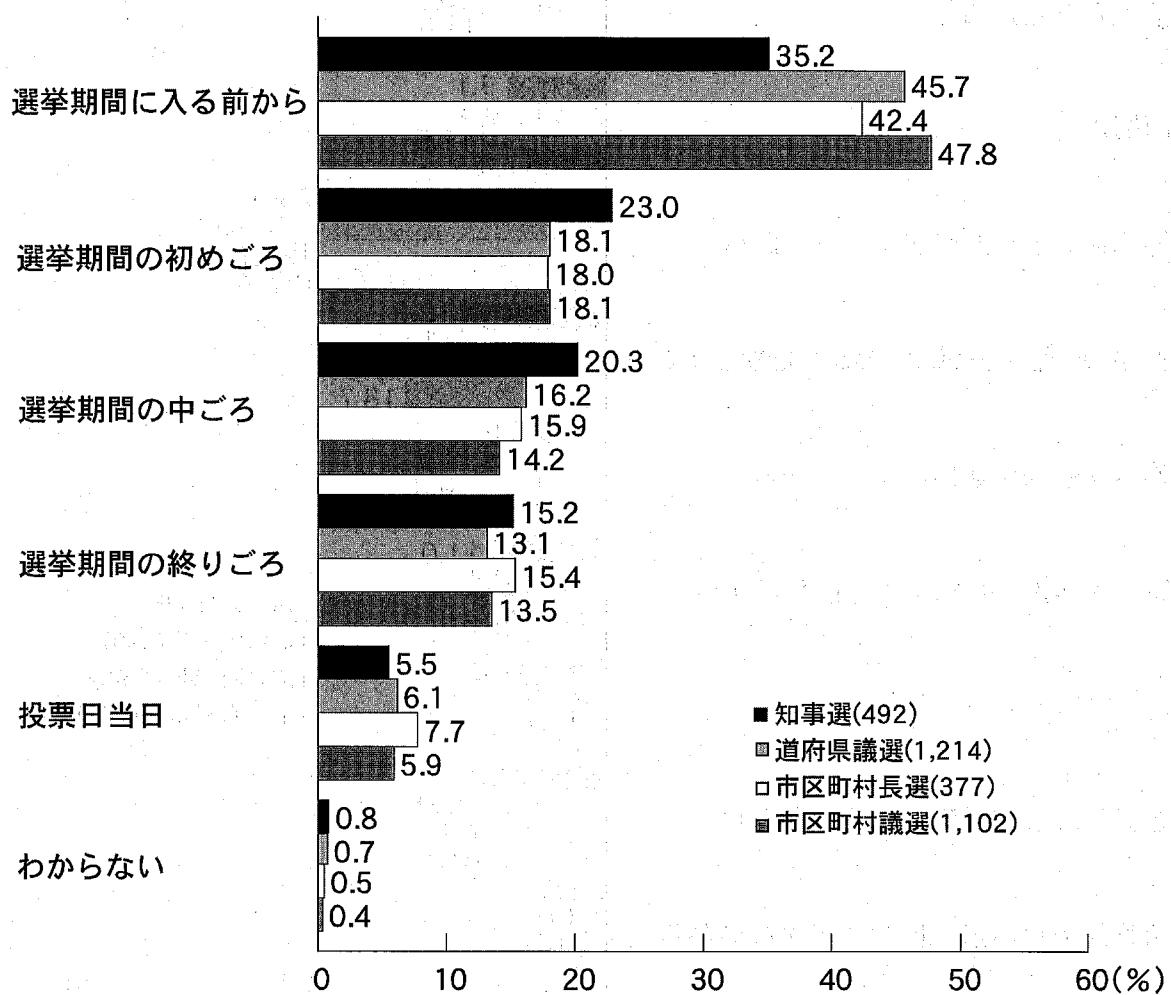
図7 棄権理由



「選挙権がない」。(2) 無関心による棄権：「面倒」、「関心がなかった」。(3) 有効性への疑問からの棄権：「適当な候補者がいなかった」、「私が…投票しなくても同じ」、「無風選挙」、「政治はよくならない」。(4) 情報不足からの棄権：「よくわからなかつた」。

最も選択率が高かった理由は「用があったから」で、どの選挙においても、40%近くの棄権者がこれを棄権理由として選んでいる。どのような用事があったのかはわからないが、一応避けられない用があったと考えられる。「病気だったから」を理由として選んでいるのは10%前後である。どの選挙でも、2番目に多いのが「選挙にあまり関心がなかったから」で、約30%の棄権者がこれを選択している。「面倒だから」は10%前後である。有効性への疑問からの棄権では、4つの項目とも選択率がそれほど高くはないが、多いもので10%前後である。情報不足からの棄権である「政策や候補者がよくわからなかつた」は、15%前後であり、3番目に選択率が高い棄権理由と

図8 投票候補者決定時期



なっている。以上の結果から、棄権理由は、やむをえない棄権が最も多く、その次に無関心、情報不足、最後に有効性への疑問という順番になっている。

本調査では、「特定の候補者に投票するのを決めたのはいつ頃であったのか」という質問をしている。その回答を、選挙の種類ごとに見たものが図8である。どの選挙においても、選挙運動期間前に決定していた有権者が最も多く、その割合は、市区町村議選47.8%、市区町村長選42.4%、道府県議選45.7%、知事選35.2%となっている。4つの選挙の中では、知事選に関しての決定がやや遅かったようである。また、どの選挙においても、選挙当日に候補者を決定する有権者が、5~8%いる。

6 政党支持と投票

(1) 政党支持

有権者の政党支持は心理的なものであるが、実際の投票行動と密接に結びついており、投票の重要な決定因である。政党支持の分析で留意すべきことは、われわれの調査では「あなたは、ふだん何党を支持されていますか」と「ふだん」を入れてより長期的な政党支持態度を聞いている。その点、新聞社などの調査で「いま、あなたは何党を支持していますか」と少し異なっている。

平成5年の政権交代以来、日本の政党システムが大きく変動していることが表3の政党支持のデータから見てとれる。まず、①自民党の支持基盤の縮小である。第12回(平3)と比べると自民党が支持率を減らしていることがわかる。②次に、民主党の出現による社会党(現社民党)の低迷である。民主党や新進党の出現によって、野党第一党の地位を民主党や新進党に奪われている。③公明党の支持率は第12回と比べても安定しており、支持率の揺らぎが最も少ない。なお、第13回(平7)データは公明に対する支持である。④最後は脱政党化の現象である。第12回36.0%と比較すると、無党派層(支持政党なし)が大量に増えており、今回も52.5%と過半数を超えていている。

表3 政党支持率の推移

	第12回(平3)	第13回(平7)	第14回(平11)	第15回(平15)
自民党	40.0%	24.3%	26.9%	27.9%
民主党	—	—	5.0	4.5
公明党	3.9	3.1	4.2	3.8
共産党	2.0	1.7	3.1	2.4
自由党	—	—	1.1	0.7
社民(社会)党	10.2	5.8	3.2	1.5
保守新党	—	—	—	0.1
新進党	—	3.3	—	—
その他	2.5	1.7	0.0	0.3
支持政党なし	36.0	55.3	50.6	52.5
わからない	5.4	4.9	5.8	6.3

(2) 政党支持と投票行動

表4は道府県議選における支持政党と投票政党の関連を見たものである。自民党を支持政党にあげた回答者のうち、77.6%が自民党に投票している。これが自民党支持者の歩留りである。民主党支持者はその68.2%が民主党に投票し、3%が自民党に流れている。また公明党支持者の歩留りは75.5%で14.3%が自民党に流れ、民主党への流出は2%である。ここでも自民党と公明党の選挙協力のインパクトが明らかである。

共産党の歩留りは74.4%である。最も巨大な集団である無党派層の投票行動はどうだろうか。表から明らかなように無党派層は人数のうえで最も大きく、その動向は政治を大きく左右する。投票した無党派層のうち、自民党へ21.1%、民主党へ6.7%、無所属候補へ30.8%投票している。

表4 支持政党と投票政党(道府県議選)

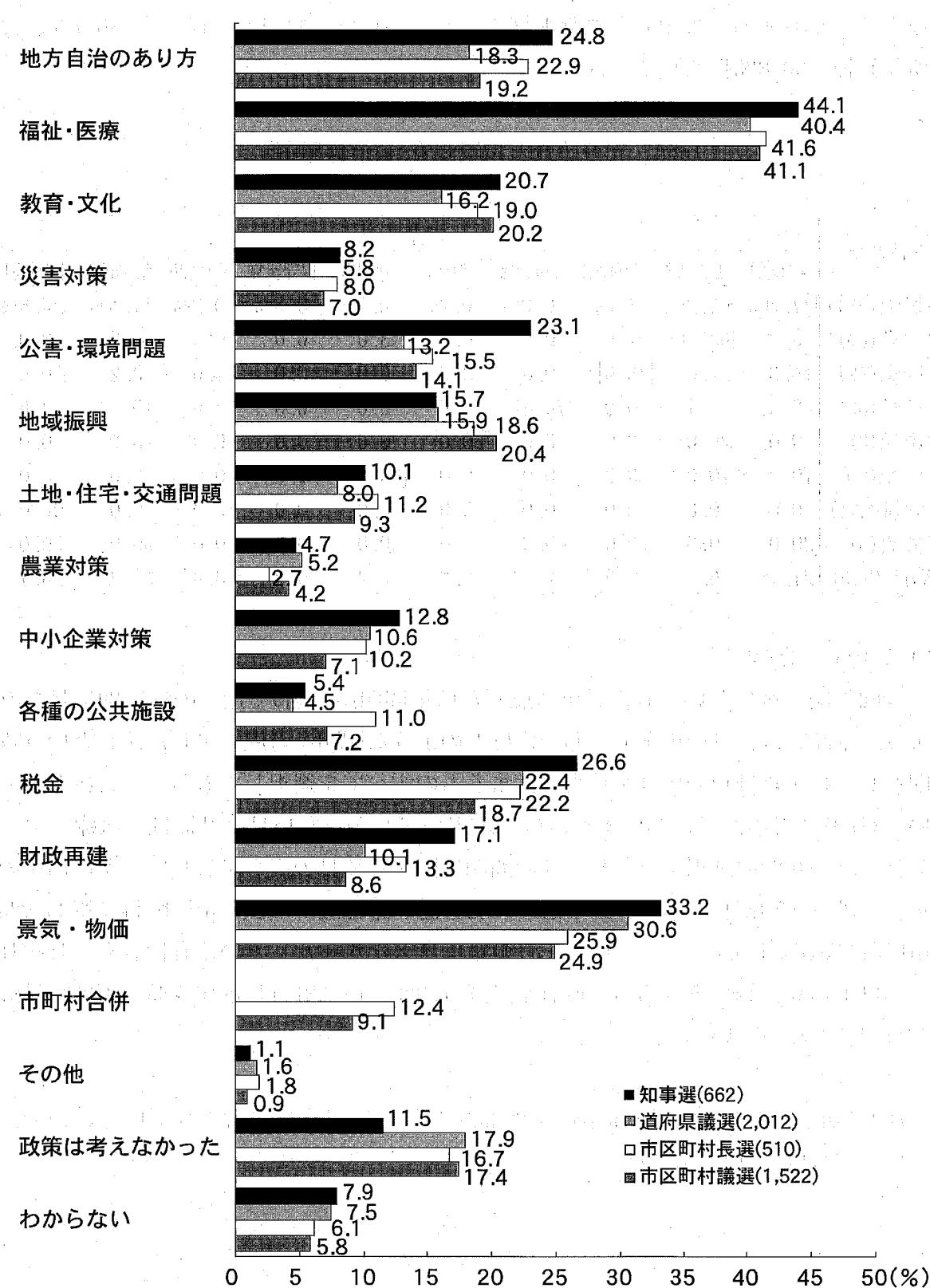
支持政党	投票政党									
	自民党	民主党	公明党	共産党	自由党	社民党	保守新党	その他	無所属	わからない
自民党(401)	77.6%	1.7%	1.0%	0.0%	0.2%	0.7%	0.5%	0.2%	11.5%	6.5%
民主党(66)	3.0	68.2	1.5	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	21.2	3.0
公明党(49)	14.3	2.0	75.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2	0.0
共産党(39)	2.6	5.1	0.0	74.4	2.6	0.0	0.0	2.6	10.3	2.6
自由党(8)	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
社民党(20)	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	15.0	5.0
保守新党(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
その他(5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
支持なし(536)	21.1	6.7	4.9	2.4	2.2	2.2	0.0	0.9	30.8	28.7

(3) 考慮した問題

今回の統一選において有権者が考慮した政策問題を、図9で選挙の種類別に見てみよう。本調査は、「…選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか」という質問をし、13または14の項目から当てはまるものすべてを選択してもらうことになっていた(注3)。どの選挙においても、最も選択率が高かった項目は「福祉・医療」で、それぞれ約40%の選択率であり、この問題に関する注目の高さが著しい。次に高いのが、「景気・物価」であり、知事選33.2%、道府県議選30.6%、市区町村長選25.9%、市区町村議選24.9%となっている。「政策は考えなかった」という有権者もそれぞれ10%以上おり、知事選11.5%、道府県議選17.9%、市区町村長選16.7%、市区町村議選17.4%となっている。

注3 知事選と道府県議選に関する質問では、市町村合併が含まれていないので、項目数が13であった。

図9 考慮した問題



7 選挙関連情報源

(1) 情報媒体への接触度・有効度と効率性

本調査では、選挙情報媒体に関して、次のような質問をしている。「役に立ったか立たないかは別として、統一選で、あなたが見たり、聞いたり、すすめられたりしたものが、このうちにありましたら、全部おっしゃってください」。回答者は、30の項目から当てはまるものをすべて選ぶことになっている。その回答を表したのが図10である。「見聞きした」棒グラフが、接触度を示している。接触度が高かったのは、「候補者や政党のポスター」で47.1%の回答者が接触している。次が「連呼」の46.6%である。その他、30%以上の有権者が選んでいるものでは、「選挙公報」34.1%、「候補者の葉書」33.4%、「候補者や政党のビラ」32.7%、「電話による勧誘」31.1%となっている。

本調査では、同じ30の項目に関して、「候補者の情報を得るのに役に立ったものがこのなかにありましたら、おっしゃってください」という質問をしている。その回答も図10に示してあり、「役に立った」棒グラフが有効度を示している。この図から見てわかるように、接触度が高い情報媒体が、必ずしも有効度(役に立つ度合い)が高い情報とは限らない。特に、「連呼」は、接触度は46.6%と高いが、有効度は4.1%と低い。つまり、「連呼」は効率性が低い選挙情報媒体であると言える。

その効率性を数値で表したのが図11である。この数値は、有効度を接触度で割ったものである。例えば、「連呼」の効率性は、 $4.1/46.6=0.0879$ となる。効率性が最も高いのは、「新聞の選挙報道」で0.54である。その次が「選挙公報」と「インターネット・ホームページ」でそれぞれ0.50である。インターネットはまだ十分に普及していないため、接触率は低いが、効率性は高い情報媒体なのである。その次に効率性が高いのは、「家族の話し合い」と、「週刊誌・雑誌の選挙報道」で、それぞれ0.45である。次に、「候補者や政党の演説会」と「公開討論会」がそれぞれ0.43である。その他、効率性が0.40以上なのは、「友人・知人・親戚のすすめ」0.42、「テレビの選挙報道」0.41、「候補者のテレビ政見放送」0.40である。

図10 接触情報と有効情報

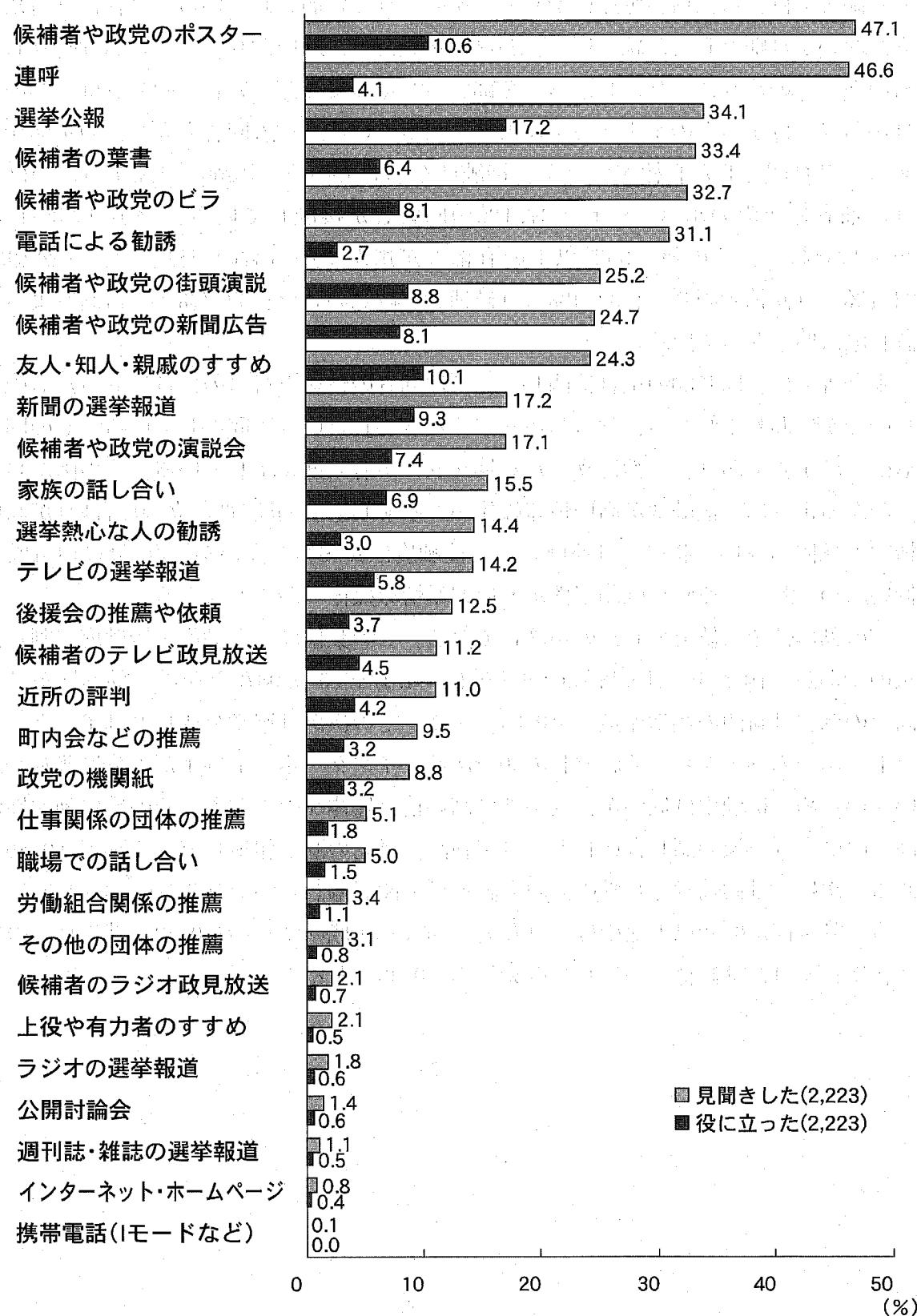
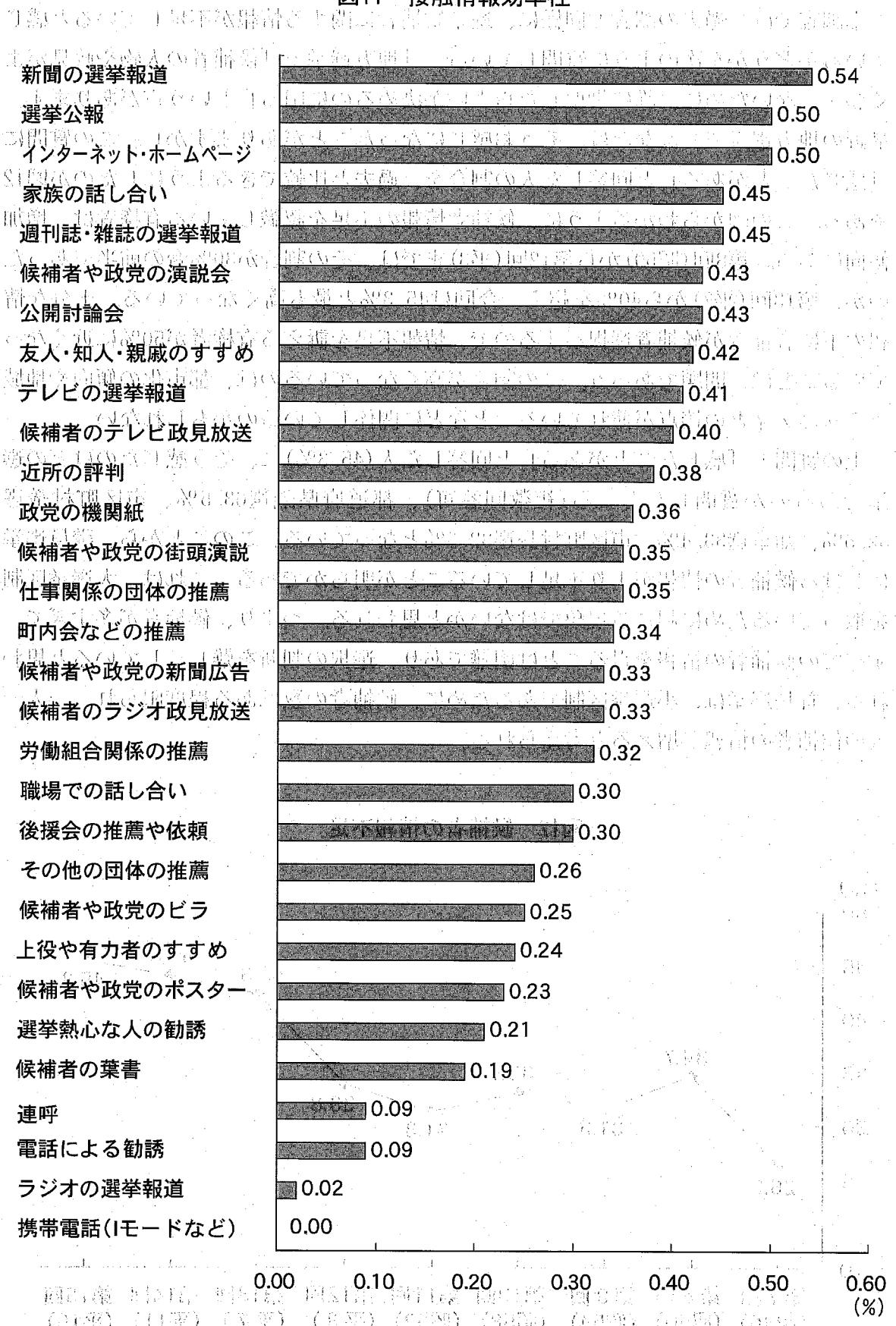


図11 接触情報効率性

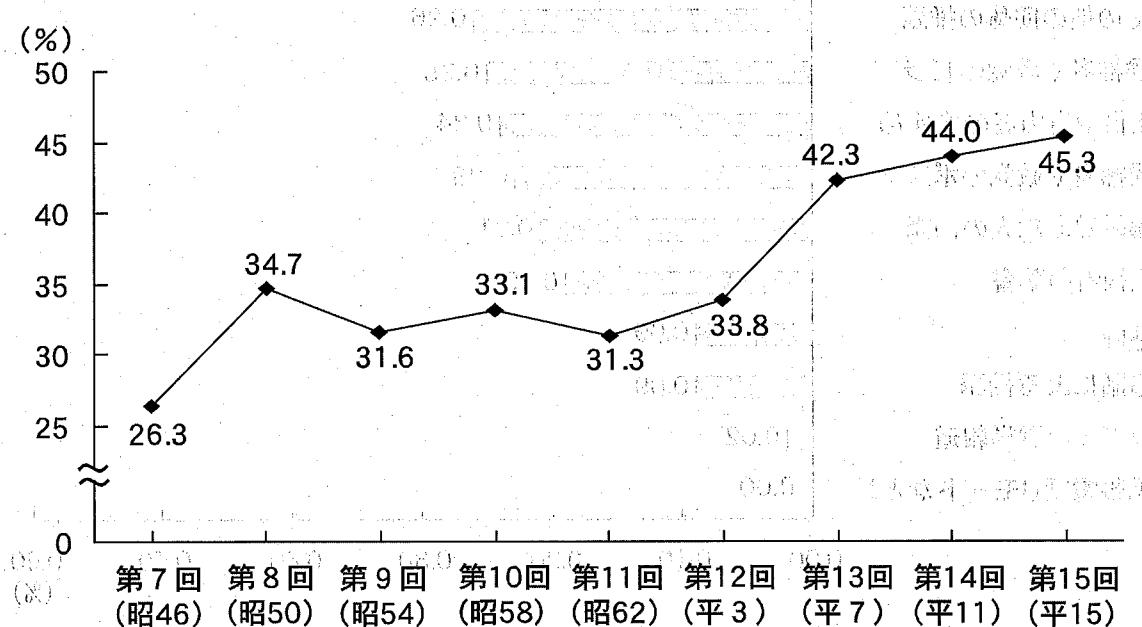


(2) 候補者情報の不足

本調査では、過去の調査と同様に、選挙候補者に関する情報が不足していると感じているかどうかを次のように質問している。「地方選挙で「候補者の人物や政見がよくわからぬために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」という声があります。最近の地方選挙で、あなたは、そうお感じになったことがありますか」。この質問に、「感じたことがある」と回答した人の割合を、過去と比較できるようにしたのが図12である。この図からわかるように、候補者情報の不足を認識している有権者は、増加傾向にある。第8回(昭50)から第12回(平3)までは、その割合が30%台の前半であったのが、第13回(平7)から40%を超え、今回は45.3%と最も高くなっている。十分な情報の下に有権者が候補者選択をするので、情報不足を訴える有権者が50%に近くなっていることは、問題であろう。この割合が高くなっているのは、都市化の傾向や地域コミュニティとの接点が薄れていることなどに関係しているのかもしれない。

上の質問で「感じたことがある」と回答した人(45.3%)に、そう感じたのはどの選挙であるのか質問したところ(複数回答可)、都道府県議選63.5%、市区町村議選52.5%、知事選33.4%、市区町村長選32.5%となっている。このことから、議員選挙における候補者の情報がより不足していることが明らかである。これは、大選挙区制を取っているために起こる現象ではないかと思われる。つまり、候補者が多すぎて、すべての候補者の情報を得ることは困難であり、選択の判断を難しくしていると思われる。首長選挙は、小選挙区制であるために、候補者の数はある程度限られ、一人一人の候補者の情報が増えると考えられる。

図12 候補者の情報不足



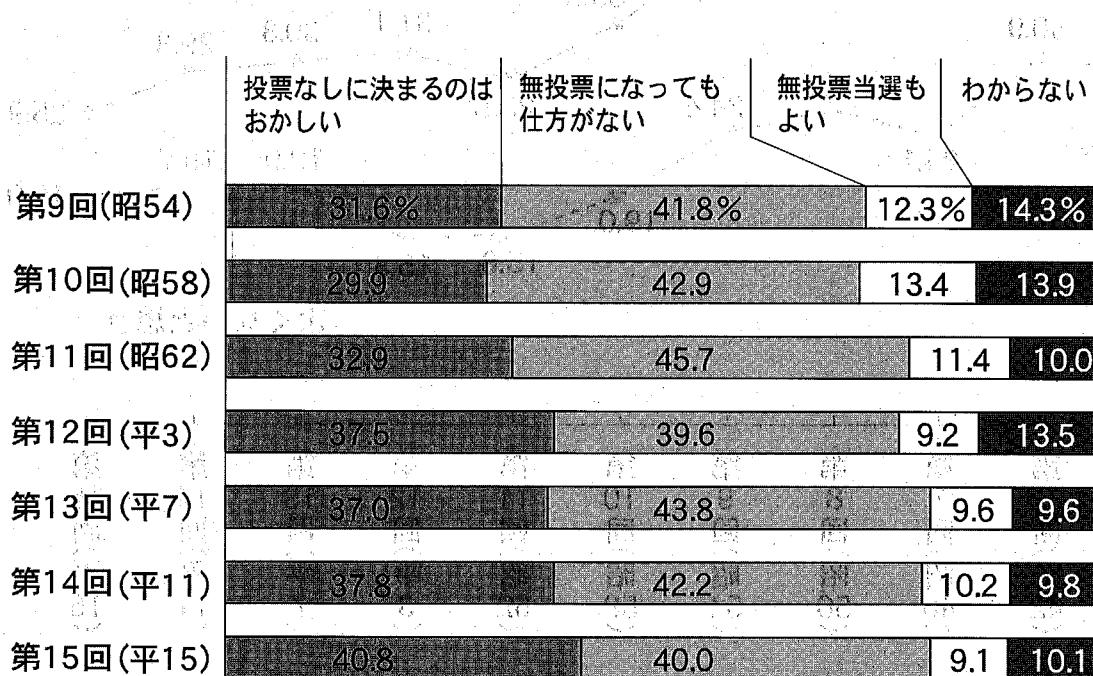
8 選挙のあり方

(1) 無投票当選の是非

候補者の数が選挙区の定数を超えると、選挙なしに当選者が確定する、いわゆる無投票当選については、有権者の選挙の機会を奪うという観点から批判が多い。今回の統一選での無投票当選人は、知事選1人、道府県議選513人、指定市議選31人、市長選12人、市議選277人、町村長選276人、町村議選4,099人の合計5,209人となり、前回の3,004人を上回った。これは統一選全体の15.9%で、過去最高である。有権者はこれらの無投票当選をどのように受け止めているのだろうか。本調査では、「今回の地方選挙では、無競争当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。つぎのうちからあなたの気持ちに一番近いものを一つだけあげて下さい」と質問し、「公職者(首長や議会議員)は投票で決めるのが本すじであるのに、投票なしに決まるのはおかしい」、「定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になんでも仕方がない」、「選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい」の3つの選択肢のうちから1つ選んでもらった。図13はその結果を示している。同じ質問を、第9回(昭54)から行っているので、時系列的な比較が可能である。

第12回(平3)あたりから「投票なしに決まるのはおかしい」と考える人が増えてはいるが、今回はそれが40%を超え、「無投票になんでも仕方がない」を少し上回った。「選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、

図13 無投票当選の是非の変化



「無投票当選もよい」という積極的に無投票を評価する人は次第に減少し9.1%だった。今回の統一選は町村合併の影響で無投票当選が多かったが、それでも「投票なしで決めるのはおかしい」40.8%が「無投票になつても止むをえない」40.0%を超えたのは注目に値する。

(2) 地元推薦について

次に地元推薦について見てみよう。地方選挙、特に市區町村議選においては地元推薦が行われ、その地元の有権者に対して特定の候補者に投票するように促されることがある。明るい選挙推進協会は第6回(昭42)以来、市區町村議選における地元推薦の有無と是非について質問をしてきたが、その結果が図14に示されている。それによると、今回「地元推薦あり」と回答した人は25.9%と過去最低で、年を経るごとに減少している。自由投票の原則からいって喜ばしいことである。また、「地元推薦があった」と回答した人に、その是非について聞くと、19%が「地元推薦はよくない」と考えている。

図14 市區町村議選における地元推薦の有無と評価

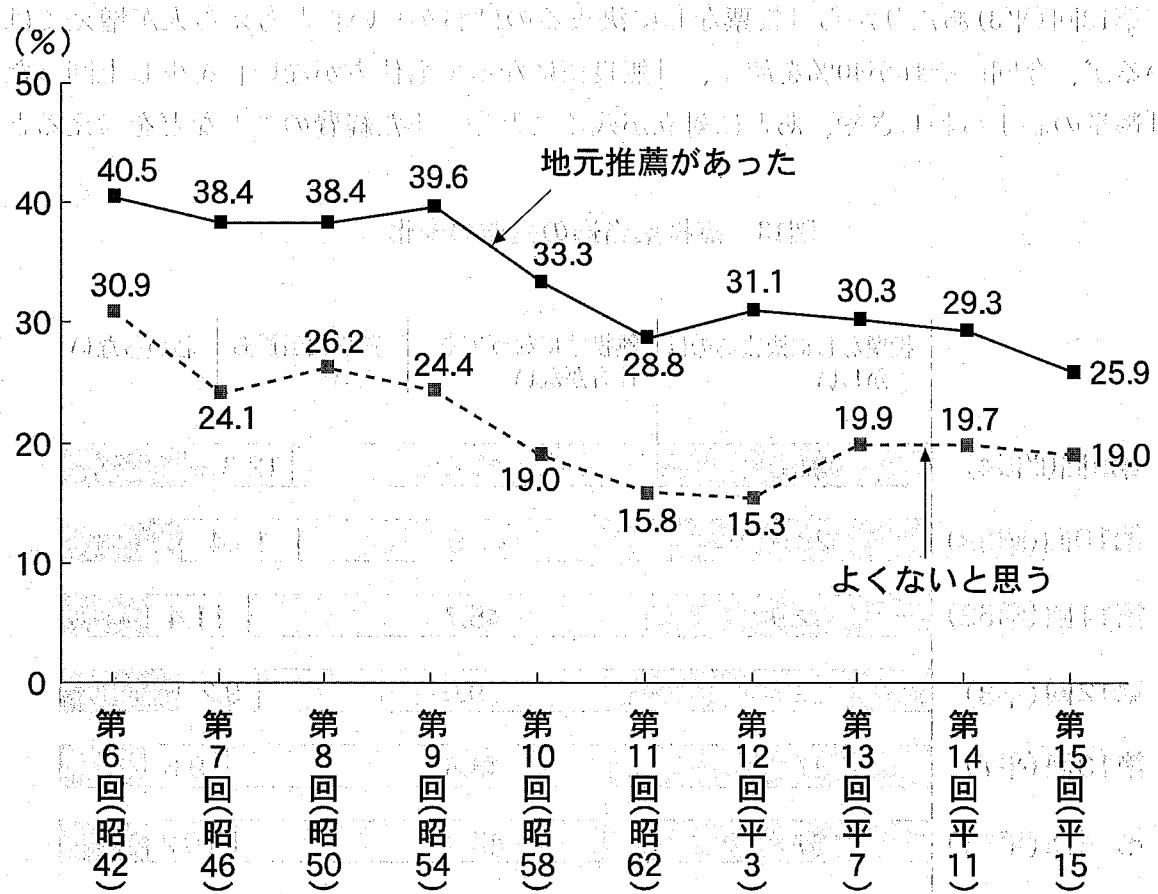
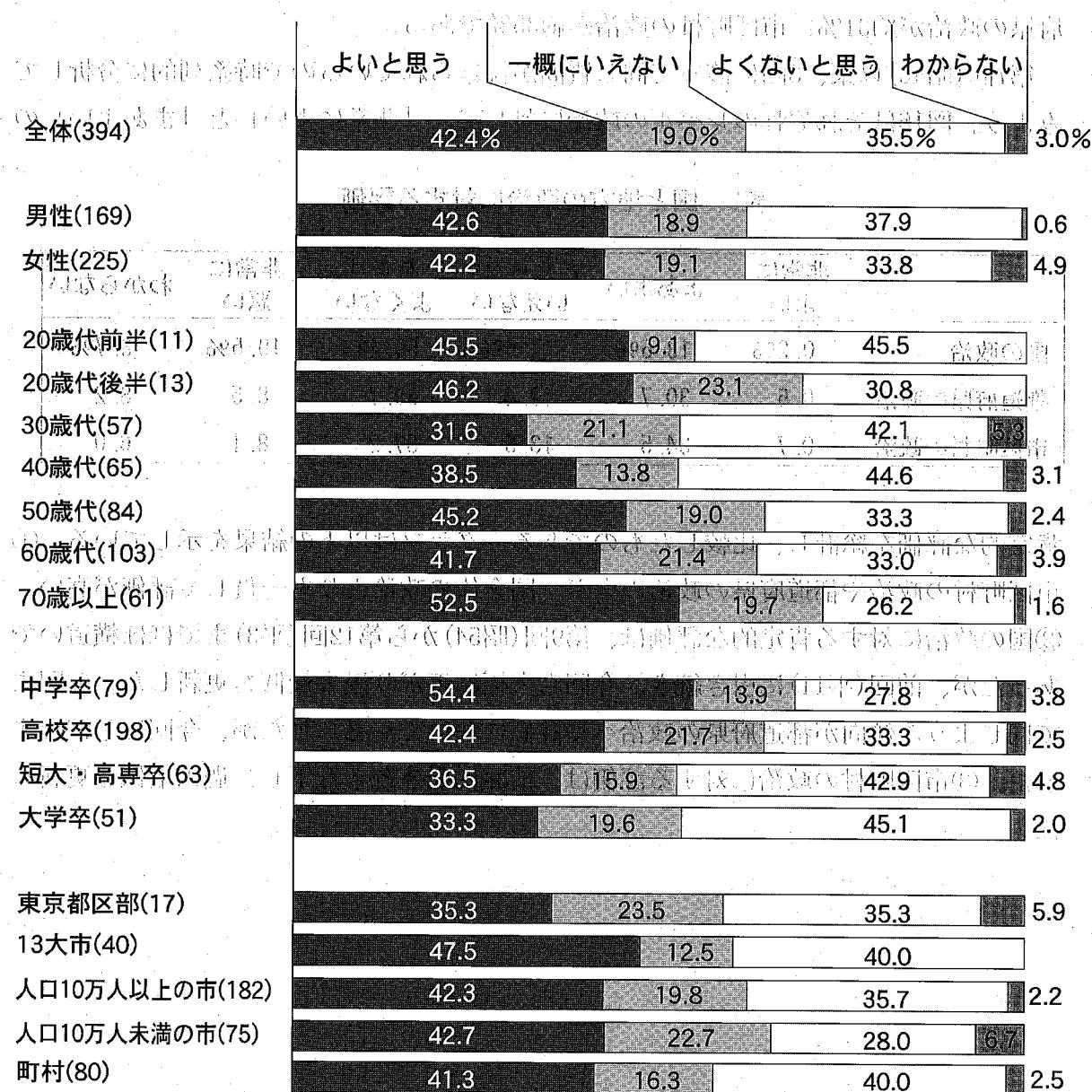


図15は地元推薦の是非と社会的属性の関係である。分析の対象者は全員ではなく、「地元推薦があった」と回答した人である。その意味で、もともと大都市の有権者は相対的に少ない。性別による差は有意ではない。年齢的に見ると、70歳以上が52.5%と最も肯定的で高い。逆に30歳代は、31.6%と肯定的な割合が最も小さい。学歴との関係では、学歴が高くなればなるほど否定的になる。都市規模別で大きな違いはない。

図15 地元推薦の是非



9 政治一般の評価

(1) 国と地方の政治の評価

日本の有権者は、国や地方の政治をどのように評価しているのだろうか。政治に対する評価を日本の政治全体と、都道府県の政治、市区町村の政治に分けて、「非常によい」、「まあよい」、「あまりよくない」、「非常にわるい」、「どちらともいえない」の5つに評価してもらい、表5の結果を得た。表から明らかなことは、国の政治より都道府県の政治の方が、また、都道府県の政治より市区町村の政治の方が評価が高いことである。例えば、「非常によい」と「まあよい」を合わせると、国の政治が約14%、都道府県の政治が約31%、市区町村の政治が約35%である。

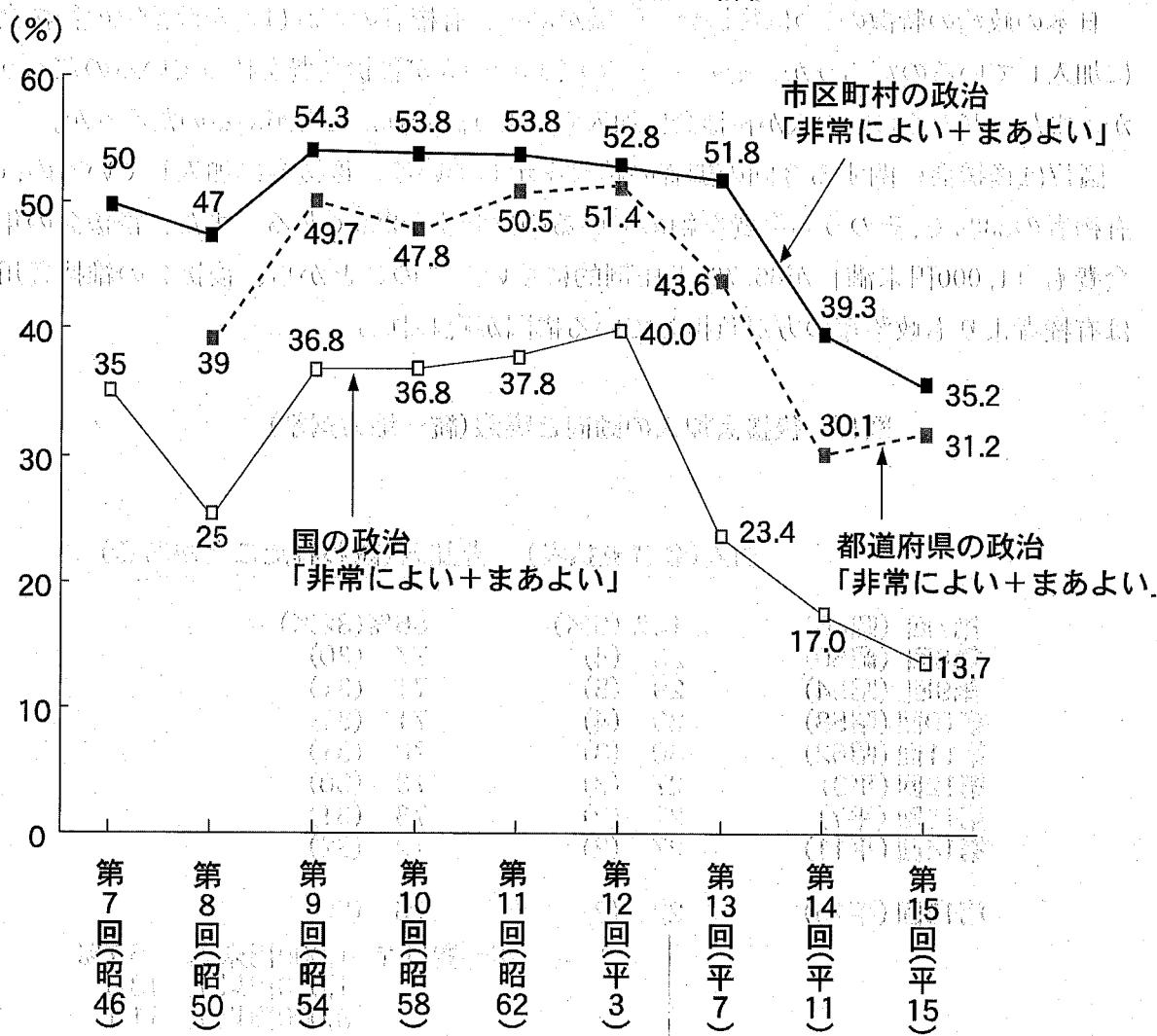
第7回(昭46)以来、8回に渡って同じ質問が続けられているので時系列的に分析してみよう。図16はそれぞれのレベルの政治に対して、「非常によい」と「まあよい」の

表5 国と地方の政治に対する評価

	非常に よい	まあよい	どちらとも いえない	あまり よくない	非常に 悪い	わからない
国の政治	0.2%	13.5%	7.6%	55.4%	19.5%	3.7%
都道府県の政治	0.5	30.7	12.4	39.7	8.5	8.2
市区町村の政治	0.7	34.5	13.5	37.2	8.1	6.0

肯定的な評価を総計し、比較したものである。グラフは以下の結果を示している。
①市区町村の政治や都道府県の政治の方が、国全体の政治よりも一貫して評価が高い。
②国の政治に対する肯定的な評価は、第9回(昭54)から第12回(平3)まではほぼ横這いで
あつたが、前回(平11)に引き続き、今回も大幅に下がり過去最低を更新した。前回ま
で同じような傾向が都道府県の政治への評価においても見られたが、今回は下げ止ま
った。③市区町村の政治に対する評価は、前回に引き続き低下し、過去最低を更新し
た。

図16 各レベルの政治の評価

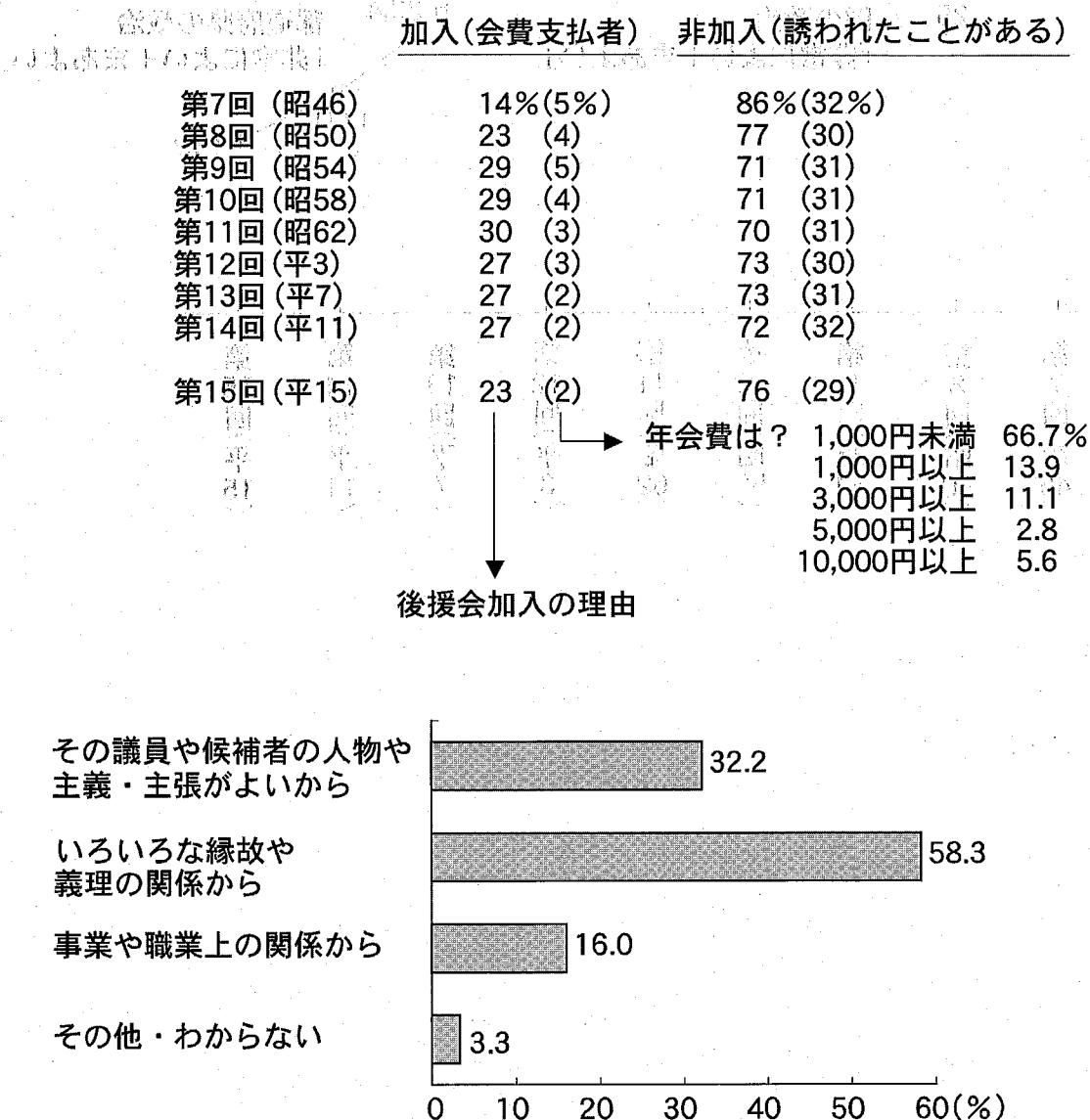


10 後援会加入の実態

日本の政治の特徴の1つに後援会の隆盛がある。有権者のどれほどが政治家の後援会に加入しているのだろうか。そのうちどのくらいの人が後援会費を払っているのだろうか。また、どのくらいの人が後援会に加入するよう誘われたことがあるのだろうか。

図17は後援会に関する今回の調査の結果を示している。後援会に加入しているのは有権者の23%で、そのうち会費を納めているのはわずか2%である。また、後援会の年会費も「1,000円未満」が66.7%と圧倒的に多い。このことから、後援会の維持費用は有権者よりも政治家の方が負担している構図が窺われる。

図17 後援会加入の動向と実態(統一地方選挙)



※ 複数回答のため合計は100%を超える

後援会加入の実態を時系列的に見ると、第7回(昭46)のときは、後援会加入者は約14%にすぎなかつたが、第11回(昭62)には30%まで上昇し、今回は23%になった。会費納入者の割合は次第に下がつてゐる。

後援会加入への勧誘も盛んであるが、今回に限ればやや減つてゐる。後援会に加入はしていないが候補者の後援会に加入してほしいと誘われたことのある人が29%であった。人々はどの様な理由で後援会に加入するのだろうか。後援会加入の理由で最も多いのは、「いろいろな縁故や義理の関係から」加入しているとする人で58.3%、「事業や職業上の関係から」とする人が16.0%、「候補者の人物や主義主張がいいから」とする人32.2%であった。この数字は前回と異なり、「事業や職業上の関係から」とする人が25%から16%に減少し、「候補者の人物や主義主張がいいから」とする人が26%から32.2%に上昇した。ただ、会費納入者が少ないということに加えて、後援会加入の理由が、社会的な義理からくるものが多いという点ではあまり変わっていない。それでは後援会はどの程度有権者の参加意識を高めるのだろうか。図18は各年齢層ごとに後援会加入者と非加入者の道府県議選における投票傾向の差を見たものである。すべての年令階層で後援会加入者の投票傾向が高い。とりわけ30歳未満の有権者で加入者と非加入者の差が大きい。

図18 後援会加入と道府県議選投票率

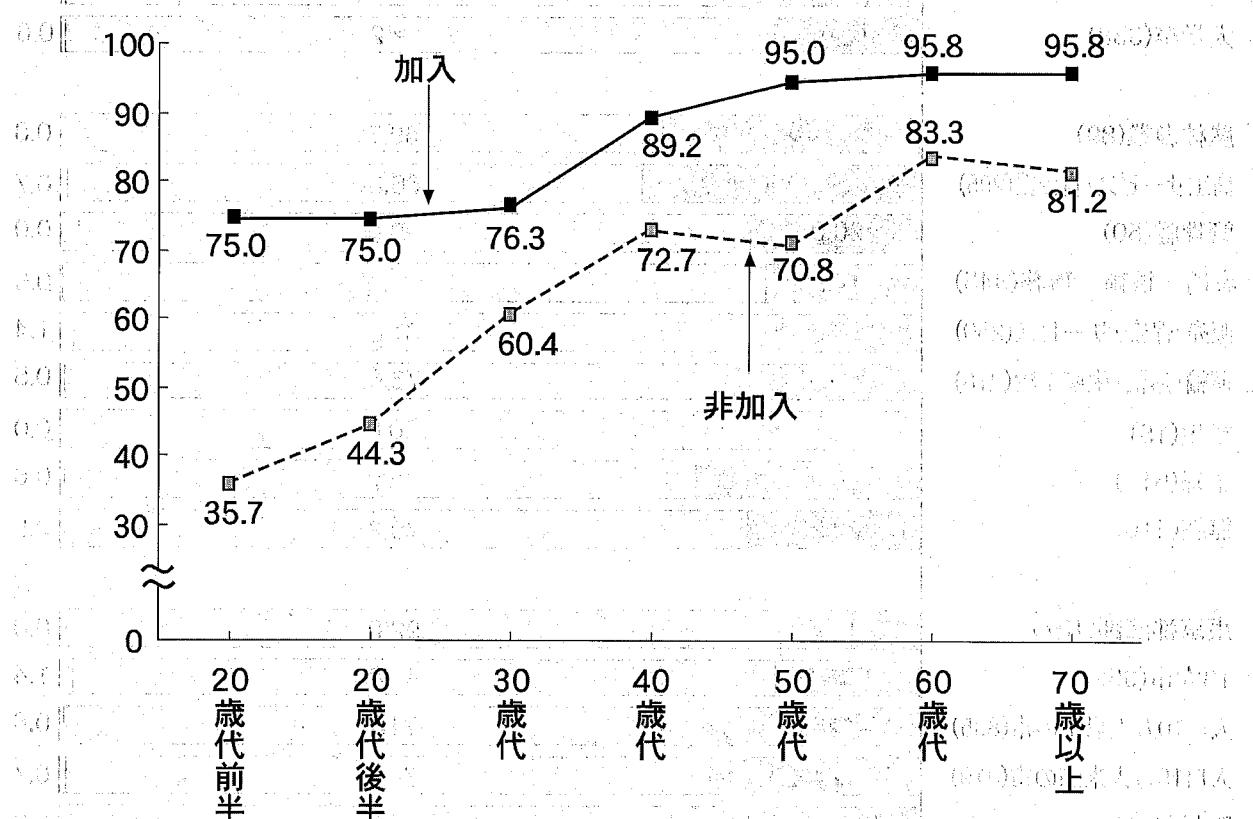


図19 後援会の加入

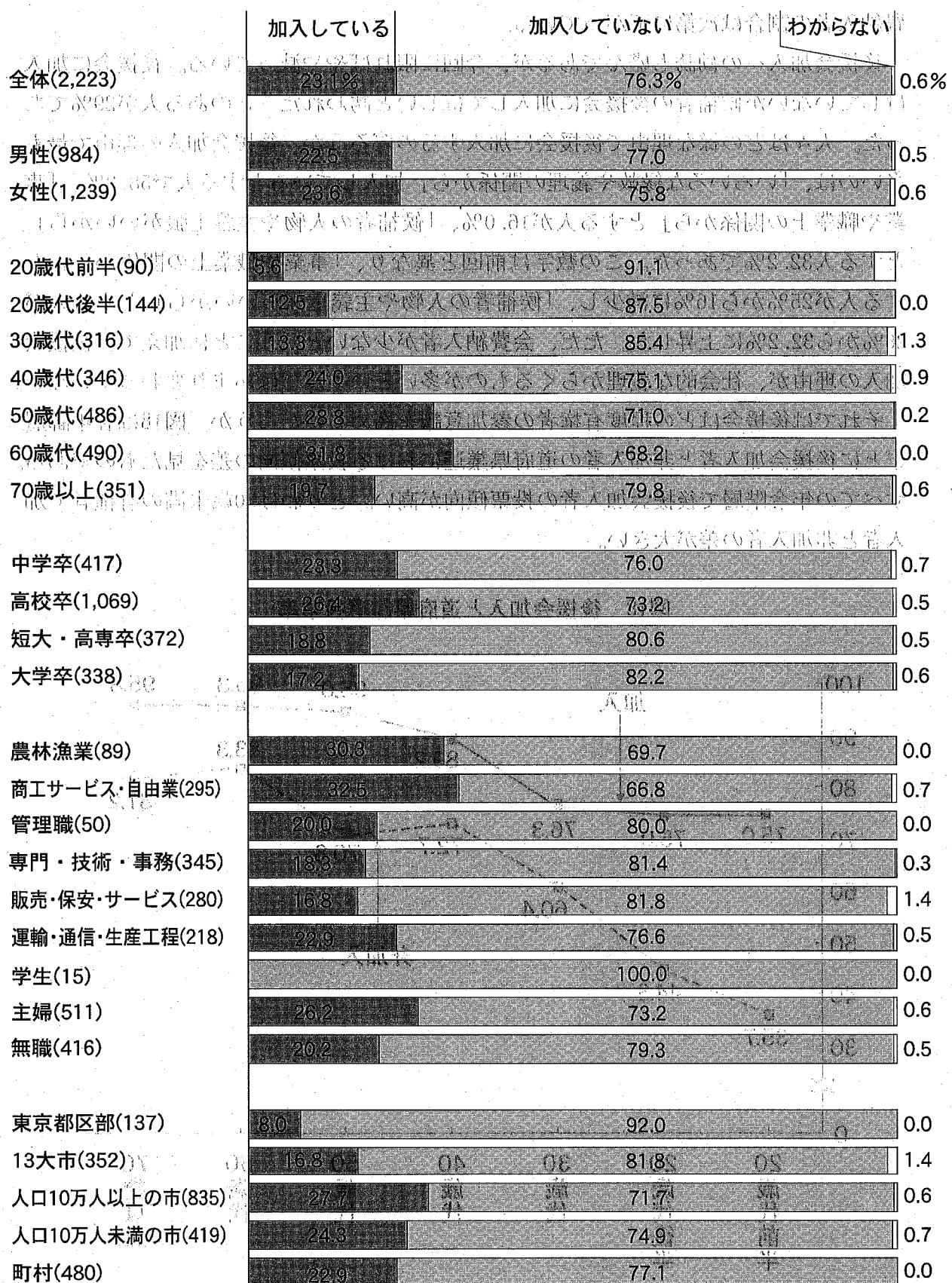


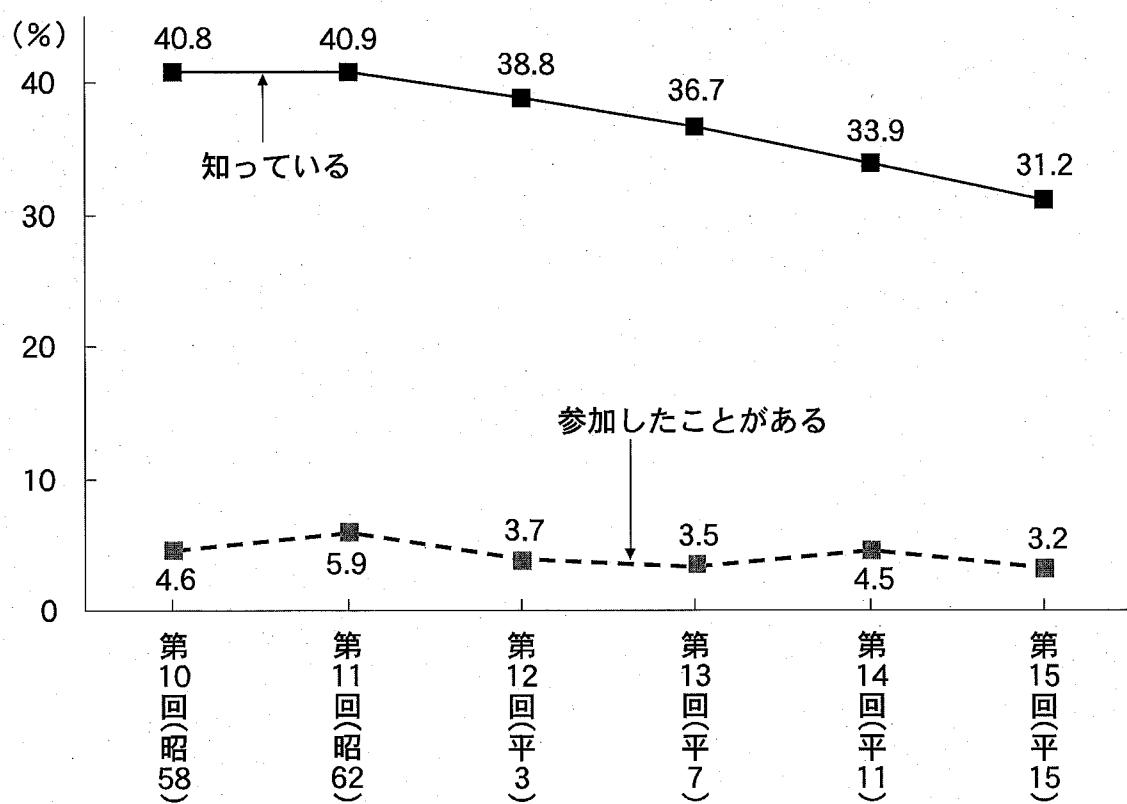
図19は後援会加入と社会的属性の関係を示している。男女差は今回余り見られないが、年齢との関連は高い。年齢が高くなればなるほど後援会加入者は増えるが、70歳を超えると加入者が減少する、70歳を超えると政治的活動が一般的に低下するので、その傾向が後援会加入にも表れているのである。学歴別に見ると教育のレベルが高くなるほど加入者は少ない。職業別では、農林漁業30.3%、商工サービス・自由業32.5%がより多く後援会に加入している。居住地域別で見ると、東京都区部8.0%や13大市16.8%での後援会加入者が少ない。

「這就是我所說的『精神』，就是我所說的『靈魂』，就是我所說的『心』。」

11. 明るい選挙推進諸活動の周知と参加

明るい選挙を明るくきれいなものにするために、明るい選挙推進協会をはじめ、都道府県・市区町村明るい選挙推進協議会など様々な団体が活動を行っている。そのような活動をどのくらいの有権者が周知し、またそうした団体の講演会、話し合い活動、学級講座に、どのくらいの有権者が参加したことがあるのだろうか。図20はその状況を時系列的に示している。

図20 明るい選挙推進諸活動の周知と参加



選挙を明るくきれいなものにするための諸活動の周知度は近年低下傾向にある。

明るい選挙推進協議会に対象を特定して、「あなたの県またはあなたのお住まいの市区町村に、選挙を明るくきれいなものにするため、選挙管理委員会や社会教育関係と協力して活動を行っている、明るい選挙推進協議会(白ばら会など)があることをご存じですか」という質問をした。それに対する回答は、「知っている」が前回の33.9%から2.7ポイント減って31.2%になった。また、それらの明るい選挙推進協議会の活動に参加したのは有権者の3.2%である。

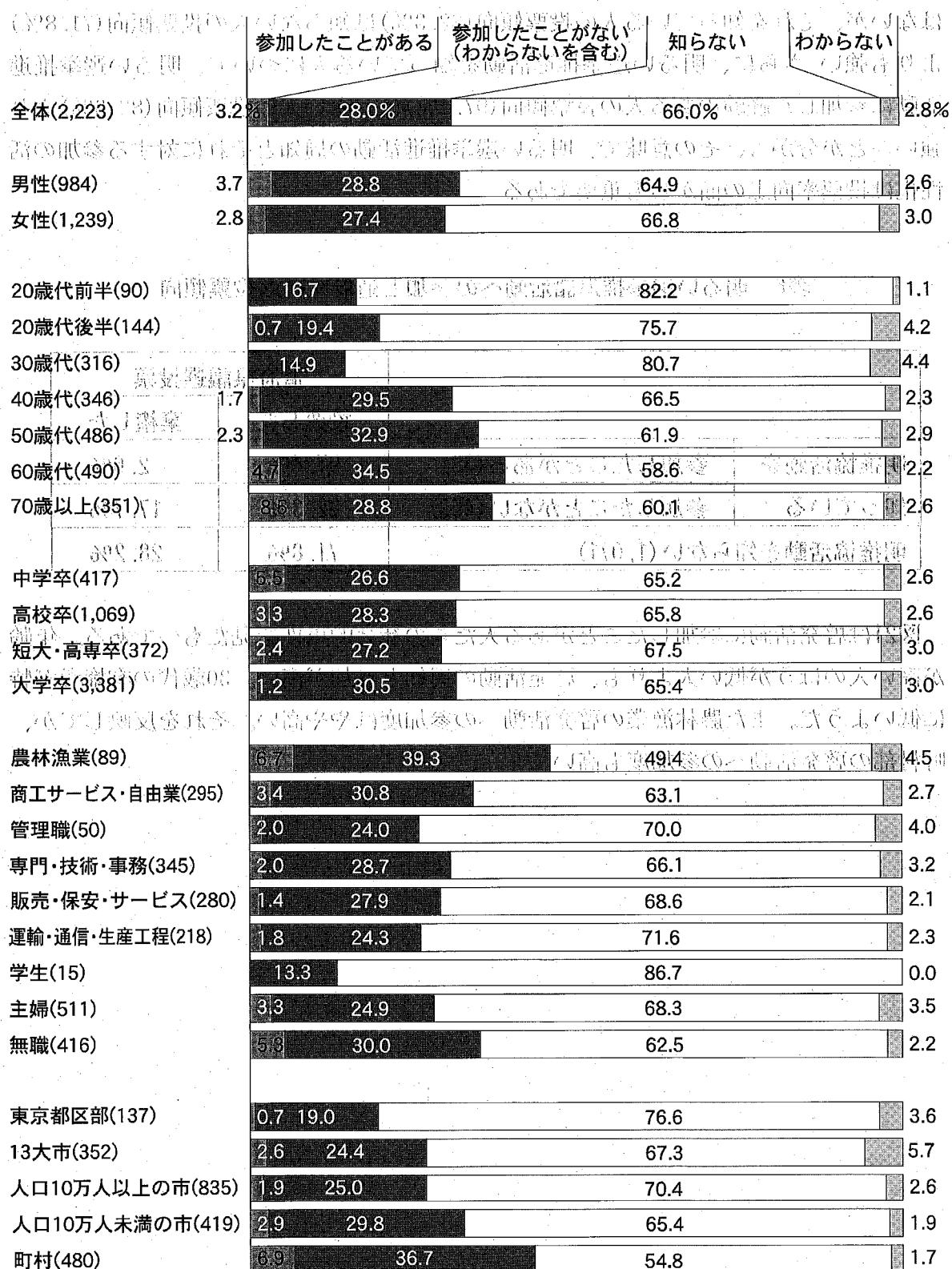
それでは、明るい選挙推進協議会の活動への参加と投票傾向にはどのような関係があるのだろうか。表6が示すように、明るい選挙推進協議会の諸活動に参加したことはないが、それを知っている人の投票傾向(82.3%)は知らない人の投票傾向(71.8%)よりも強い。さらに、明るい選挙推進活動を知っている人について、明るい選挙推進活動に参加した経験のある人の投票傾向(97.4%)は、ない人の投票傾向(82.3%)よりも強いことが分かる、その意味で、明るい選挙推進活動の周知とそれに対する参加の活性化は投票率向上の面からも重要である。

表6 明るい選挙推進諸活動への参加と道府県議選投票傾向

明推協活動を 知っている	明推協活動を 知らない(1,071)	道府県議選投票	
		投票した	棄権した
明推協活動を 知っている	参加したことがある(38)	97.4%	2.6%
明推協活動を 知らない	参加したことがない(452)	82.3%	17.7%
明推協活動を 知らない(1,071)		71.8%	28.2%

図21は啓発活動に参加したことがある人たちの社会的属性を見たものである。年齢が高い人のほうが低い人よりも、啓発活動の周知と参加が高い。30歳代の有権者が特に低いようだ。また農林漁業の啓発活動への参加度はやや高い。それを反映してか、町村部の啓発活動への参加度も高い。

図21 明るい選挙推進諸活動の周知と参加



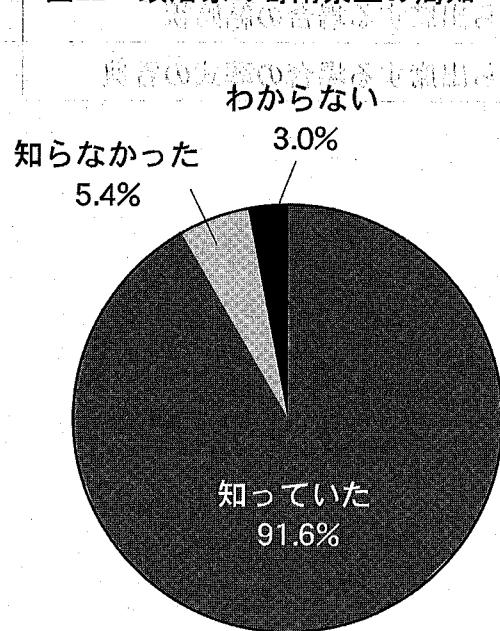
12 政治家の寄附禁止の周知

平成2年2月から公職選挙法が改正され、政治家が選挙区内の人に寄附することは禁止され、原則として罰則の対象となつた。このことについて、「政治家が、選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となりますが、あなたはご存じでしたか。」という質問をしたところ、図22のとおり前回(91.8%)とほぼ同じく91.6%の有権者が知っていると回答している。その意味で政治家の寄附禁止の周知度は極めて高い。では、具体的な禁止項目について有権者はどのくらい周知しているのだろうか。

この調査では、表7にリストした寄附項目を調査対象者に示し、「政治家が、次に揚げるものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。罰則をもって禁止されている寄附にあたると思うものをこのなかからいくつでも結構ですからあげてください」という質問をしている。このリストのうち、「政治家本人自ら出席する場合の結婚祝」や「政治家本人自ら出席する場合の葬式の香典」は禁止されているが罰則の対象ではないので、この2つをあげた場合は誤答になる。

回答の傾向は前回の調査とほとんど変わっていない。具体的な禁止項目の認識は、最高の「お歳暮やお中元」でも(前回75.7%、今回76.0%)あまり高くない。「病気見舞いの品」に至っては40.0%と極めて低い。言い換えれば60%の有権者が病気見舞

図22 政治家の寄附禁止の周知



いの品を政治家からもらってもかまわないと考えているのである。一般的な政治家の寄附禁止の周知度は極めて高いが、禁止されている寄附行為の具体的形態についての有権者の周知度はまだ不十分であるように思われる。

表7 政治家の寄附禁止の周知度(第14回・第15回調査)

	第14回 (平11)	第15回 (平15)
正答	お歳暮やお中元	75.7 76.0
	入学祝、卒業祝	62.8 63.1
	町内会の集会や旅行などの催物への寸志や飲食物の差入	57.3 54.1
	落成式、開店祝の花輪	55.1 52.8
	葬式の花輪・供花	51.2 50.6
	お祭りへの寄附や差入	51.6 50.4
	地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差入	50.4 48.3
	秘書等が代理で出席する場合の結婚祝	41.4 42.5
	秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典	39.5 40.9
	病気見舞い(の品物)	39.3 40.0
誤答	政治家本人自ら出席する場合の結婚祝	29.4 34.1
	政治家本人自ら出席する場合の葬式の香典	27.6 31.8

13 投票時間の延長について

平成9年12月に公職選挙法の一部が改正され、有権者ができるだけ投票しやすいように、投票環境が著しく改善された。その1つが投票時間の延長である。これまで、午後6時までであった投票時間が午後8時まで延長され、夕方まで仕事のある有権者や昼間はレジャーに出かける人も投票できるようになった。事実、その効果は極めて大きく、施行後初めて行われた、第18回参院選において、午後6時以後に投票した有権者は878万人以上に上った。

本調査でも投票した人の投票時間を質問しているが、その結果を年齢別に見たものが表8である。午後6時以降の投票と年齢に注目すると、両者には明らかな相関関係があり、年齢が若ければ若いほど午後6時以降に投票している。とりわけ、20歳代の有権者がこの時間帯に投票する割合が大きい。投票時間の延長は投票率の長期低落傾向に歯止めをかけるために行われたものであるが、最も投票参加の少ない20歳代の有権者がこの制度改革によって投票に行きやすくなれば、投票率の向上に効果を持つことになろう。

表8 年齢と投票時間(道府県議選)

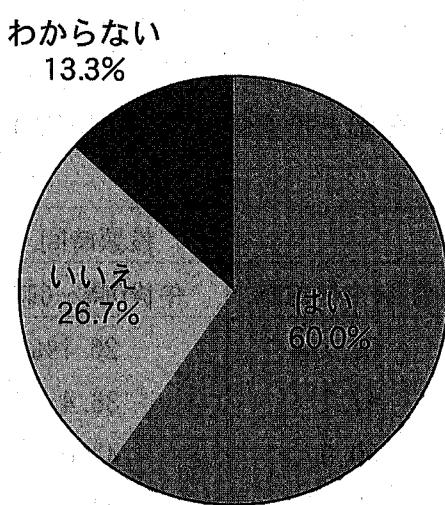
年齢	投票時間		
	午前7時～午後0時	午後0時～6時	午後6時～8時
20歳代前半(23)	52.2%	26.1%	21.7%
20歳代後半(44)	47.7	36.4	15.9
30歳代(142)	50.0	43.0	7.0
40歳代(179)	55.3	38.5	6.1
50歳代(274)	55.8	39.1	5.1
60歳代(273)	62.3	33.7	4.0
70歳以上(183)	77.6	21.3	1.1
全体(1,118)	59.7	34.9	5.4

※ 母数から「わからない」をのぞいて計算した。

実際、午後6時以降に投票した人に対して、「投票時間が午後6時まででしたら、投票にいきましたか」という質問をしてみると、図23のとおり26.7%の回答者が「いいえ」と回答しており、この改正が投票率にプラスの影響をもたらしたことが分かる。本調査では、調査対象者全員に対して「投票時間は午後8時までになりましたが、このことについて、あなたは、どうお感じになりましたか」という質問をしている。回答者は次の3つの選択肢から一つを選ぶようになっていた。その結果、64.8%が「午後8時までになったので投票に行きやすくなった」と回答し、26.9%が「午後6時まででもかまわない」と回答し、2.9%が「もっと延長してほしい」としている。したがって、過半数は現行の午後8時までの制度を支持していることがわかる。

図23 「投票時間が午後6時まででしたら、投票に行きましたか」

(道府県議選)

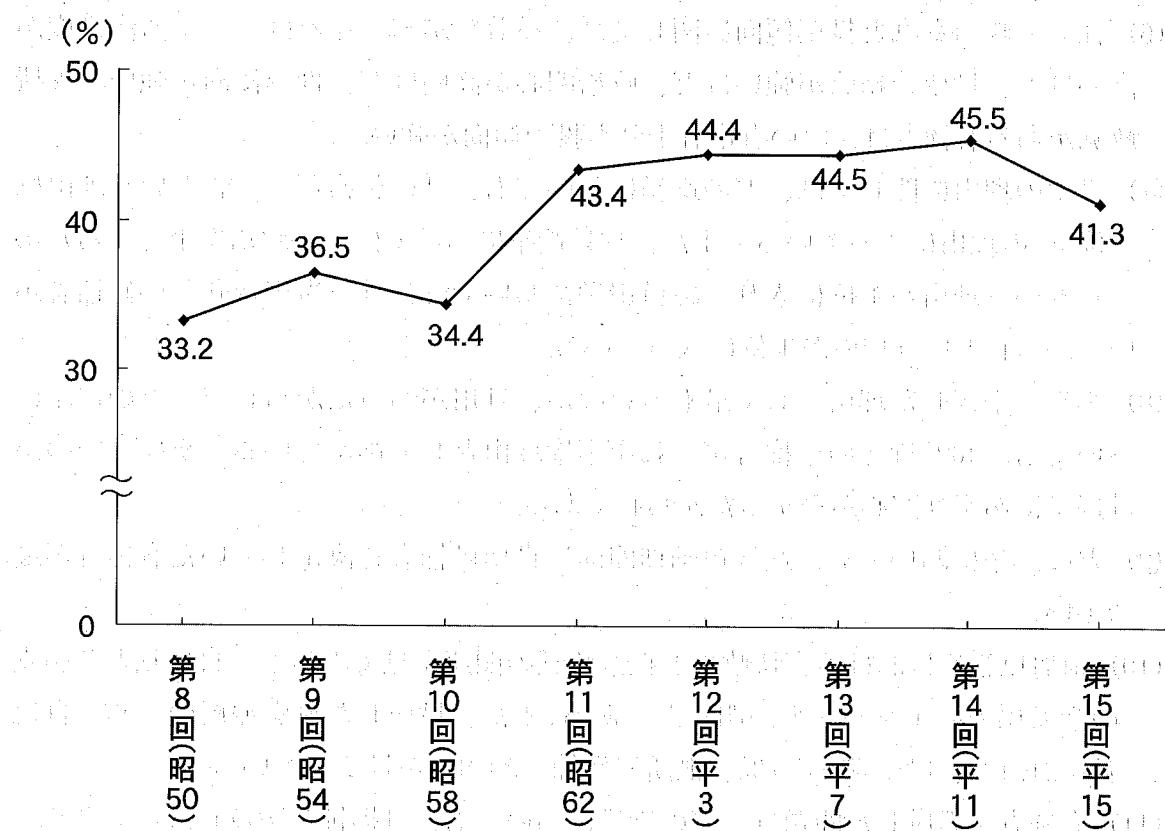


14 清潔度の印象

明るい選挙推進協会の調査では、調査の度に、「今回の統一選は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか。そうはいえないと思いますか」という質問をしている。今回の調査の回答は、41.3%が「明るくきれいに行われた」、15.3%が「そうはいえない」、21.8%が「一概にいえない」、21.5%が「わからない」と回答している。「明るくきれいに行われた」と回答した割合を時系列に見たのが、図24である。この割合は、第11回(昭62)から前回の選挙まで、上昇傾向にあったが、今回の選挙でやや減少してしまっている。

上の質問で、「そうはいえない」と回答した人に、「今回の選挙が明るくきれいに行われなかつたのは、主としてこのうちのどれに責任があると思いますか」という質問をして、5項目から選んでもらっている。回答で最も多いのが、「候補者」の39.9%、次に、「選挙民」17.6%、「政党」14.7%、「選挙制度」12.3%、「選挙運動の取締りのやり方」8.2%となっている。有権者の多くが、候補者になんらかの問題があり、選挙が明るくきれいに行われていないと感じているようである。

図24 「選挙は明るくきれいに行われた」



15 まとめ

- 今回の世論調査結果をまとめると、主に次のような点を挙げることができる。
- (1) 今回の統一選では投票率が過去最低になった。知事選52.63%、道府県議選52.48%、市区町村長選56.23%、市区町村議選55.94%であった。
 - (2) 平均競争率が高かったのは、指定都市市長選の7.0と都道府県知事選の4.2である。競争率が低かったのは、町村長選1.6、道府県議選1.5、指定都市市議選1.4、市議選1.2、特別区議選1.3、町村議選1.1である。
 - (3) 今回の統一選に、17.2%が「非常に関心」をもち、52.1%が「多少は関心」をもっており、合計で約70%がある程度の関心を持っていた。
 - (4) 有権者が最も関心をもっている選挙は、衆院選41.8%と市区町村長選40.8%で、関心が低いのが参院選11.4%と都道府県議選13.6%である。
 - (5) 投票傾向は、年齢が高くなるごとに強くなる。40歳未満の投票傾向は、高学歴ほど投票傾向が強い。40歳以上では、学歴の影響の差はほとんどない。職業と投票傾向の関係を見てみると、農林漁業、商工サービス・自由業、公務員の投票傾向が比較的高い。現市区町村における居住年数が長いほうが、投票傾向が強い。所属団体は、住民・消費者・市民運動団体、農林漁業団体、商工業関係の経済団体の投票傾向が特に強い。団体に所属していない人の投票傾向は弱い。
 - (6) 社会・政治意識と投票傾向に関しては、愛着度が高くなるほど、生活満足度が高いほど、投票義務感が強いほど、政治関心が高いほど、投票傾向が強い。支持政党がある有権者は、ない有権者よりも投票傾向が強い。
 - (7) 投票の理由に関しては、どの選挙においても、「…義務だから」という理由は上位2つの理由に入っている。また、首長選挙においては、「政治をよくするため…」という理由が上位に入り、議員選挙においては、「…当選させたい候補者がいたから」という理由が上位に入っている。
 - (8) 選挙を棄権した理由として最も多いのが、「用があったから」で、どの選挙においても、40%近くの棄権者がこれを棄権理由として選んでいる。次に多いのが「選挙にあまり関心がなかったから」である。
 - (9) どの選挙においても、選挙運動期間前に投票候補者を決定していた有権者が最も多い。
 - (10) 道府県議選における支持政党と投票政党の関連を見てみると、自民党と公明党の選挙協力のインパクトが明らかである。また、投票した無党派層のうち、自民党へ21.1%、民主党へ6.7%、無所属候補へ30.8%が投票している。
 - (11) 有権者が考慮した問題は、どの選挙においても、「福祉・医療」が最も多く、その次が、「景気・物価」であった。

- (12) 接触度が最も高かった選挙情報媒体は、「候補者や政党のポスター」、「連呼」であった。その他、「選挙公報」、「候補者の葉書」、「候補者や政党のビラ」、「電話による勧誘」が高い。情報媒体として効率性が最も高いのは、「新聞の選挙報道」、「選挙公報」、「インターネット・ホームページ」であった。
- (13) 候補者情報の不足を認識している有権者は増加傾向にあり、特に情報が不足していると有権者が回答した選挙は、都道府県議選と市区町村議選であることがわかつた。
- (14) 無投票当選の是非に関して、第12回(平3)あたりから「投票なしに決まるのはおかしい」と考える人が増えてはいるが、今回はそれが40%を超え、「無投票になんて仕方がない」を少し上回った。
- (15) 今回の選挙に関して、「地元推薦あり」と回答した人は25.9%と過去最低で、年を経るごとに減少している。
- (16) 有権者の政治評価は、国の政治より都道府県の政治の方が、また、都道府県の政治より市区町村の政治の方が高い。
- (17) 後援会に加入しているのは有権者の23%である、候補者の後援会に加入してほしいと誘われたことのある人が29%であった。年齢が高くなるほど後援会加入者は増えるが、70歳を越えると加入者が減少する。学歴別に見ると教育のレベルが高くなるほど加入者は少ない。職業別では、農林漁業、商工サービス・自由業がより多く後援会に加入している。居住地域別で見ると、東京都区部8.0%や13大市16.8%での後援会加入者が少ない。
- (18) 選挙を明るくきれいなものにするための諸活動の周知度は近年低下傾向にある。明るい選挙推進協議会の活動への参加者は、投票傾向が比較的高くなっている。
- (19) 政治家の寄附禁止一般に関する周知度は極めて高いが、禁止されている寄附行為の具体的形態についての有権者の周知度は低い。
- (20) 年齢が若いほど午後6時以降に投票している。午後6時以降に投票した人の26.7%の回答者は、投票時間が午後6時までであれば、投票していないんだろうと回答している。有権者の過半数は現行の8時までの制度を支持している。
- (21) 有権者の41.3%が今回の選挙が「明るくきれいに行われた」、15.3%「そうはいえない」、21.8%が「一概にいえない」、21.5%が「わからない」と回答している。

付録：調査対象者の社会的特徴

ここでは、本調査の分析に使われているデータの社会的属性の分布を記述する。この分布を見ることによって、現在の有権者の社会的特徴が理解できるとともに、本報告書の分析結果を解釈する上でも役に立つであろう。ここで取り上げる社会的属性は、性別、年齢、最終学歴、職業、居住年数、都市規模、居住地域、所属団体である。

(1) 性別

性別	実数	%
男性	984	44.3
女性	1,239	55.7
合計	2,223	100

(2) 年齢

年齢	実数	%
20歳代前半	90	4.0
20歳代後半	144	6.5
30歳代	316	14.2
40歳代	346	15.6
50歳代	486	21.9
60歳代	490	22.0
70歳代	294	13.2
80歳以上	57	2.6
合計	2,223	100

(3) 最終学歴

最終学歴	実数	%
小・高小・新中卒	417	18.8
旧中・新高卒	1,069	48.1
新高専・短大・専修学校卒	372	16.7
旧高専大・新大卒	338	15.2
大学院(修・博)卒	13	0.6
わからない	14	0.6
合計	2,223	100

(4) 本人職業

職業分類	実数	%
農林漁業	89	4.0
商工サービス業・自由業	295	13.3
管理職	50	2.2
専門・技術職、事務職	345	15.5
販売・保安・サービス従事者	280	12.6
運輸・通信・生産工程従事者	218	9.8
学生	15	0.7
主婦	511	23.0
無職	416	18.7
わからない	4	0.2
合計	2,223	100

(5) 業界の分布

業界分類	実数	%
公務	87	6.8
鉱業	3	0.2
建設業	121	9.5
製造業	229	17.9
電気・ガス・熱供給・水道業	23	1.8
運輸業	43	3.4
卸売・小売業・飲食店	283	22.2
金融・保険業	41	3.2
不動産業	18	1.4
新聞・放送・出版業・広告業	15	1.2
映画製作業		
情報・通信サービス業	36	2.8
医療・福祉サービス業	77	6.0
教育・研究サービス業	38	3.0
法律・会計サービス業	7	0.5
その他のサービス業	165	12.9
その他	91	7.1
合計	1,277	100

(6) 居住年数

年数	実数	%
3年未満	145	6.5
3年以上	261	11.7
10年以上	354	15.9
20年以上(生まれてからずっと)	1,459	65.6
わからない	4	0.2
合計	2,223	100

(7) 都市規模

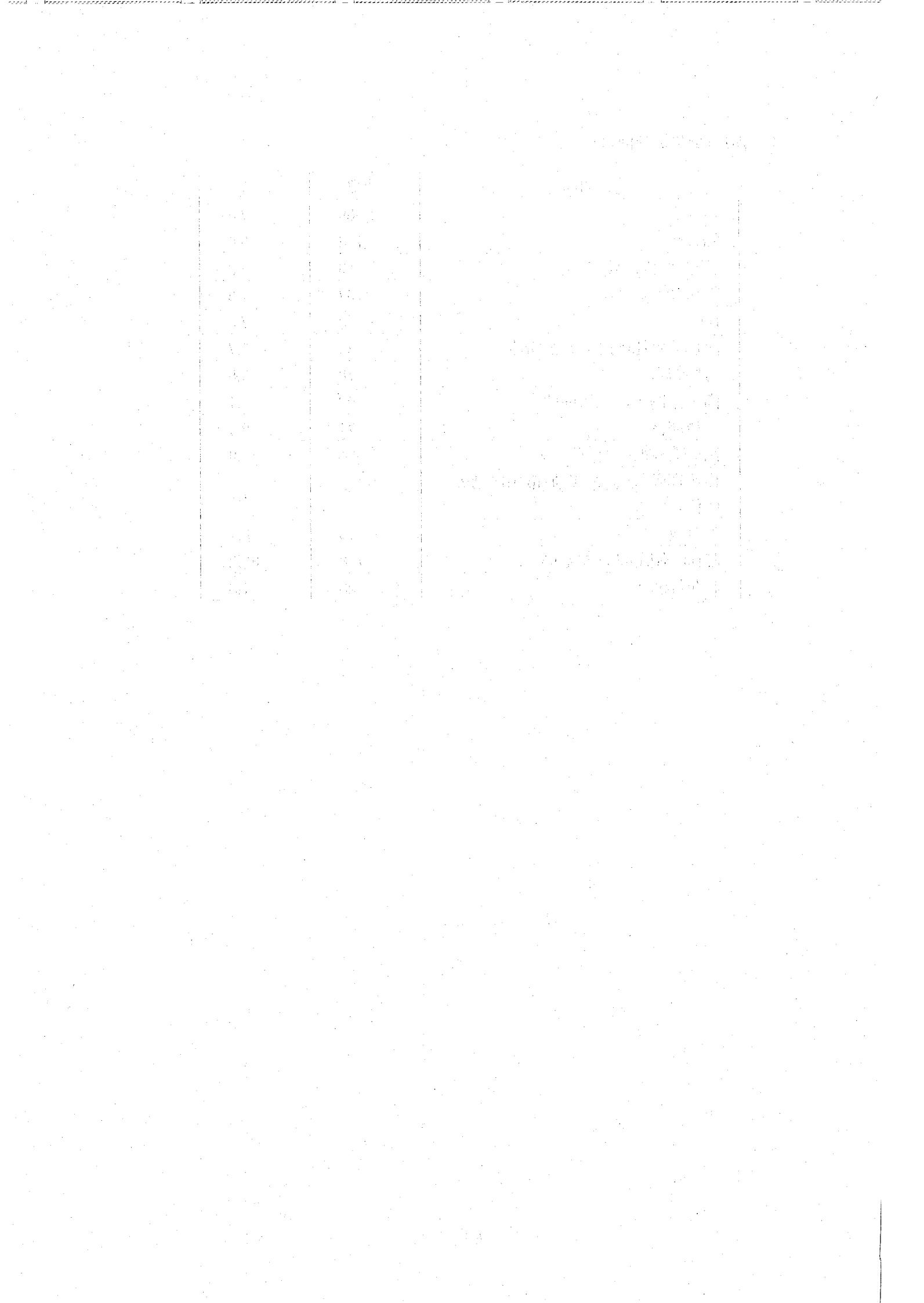
都市規模	実数	%
東京都区部	137	6.2
13大市	352	15.8
人口10万人以上の市	835	37.6
人口10万人未満の市	419	18.8
町村	480	21.6
合計	2,223	100

(8) 居住地域

地域	実数	%
北海道	112	5.0
東北	184	8.3
関東	653	29.4
北陸	110	4.9
東山	94	4.2
東海	232	10.4
近畿	374	16.8
中国	146	6.6
四国	81	3.6
北九州	146	6.6
南九州	91	4.1
合計	2,223	100

(9) 所属団体(複数回答)

団体	実数	%
自治会	1,059	47.6
婦人会	134	6.0
青年団・消防団	49	2.2
老人クラブ(会)	167	7.5
PTA	168	7.6
農協その他の農林漁業団体	83	3.7
労働組合	78	3.5
商工業関係の経済団体	92	4.1
宗教団体	71	3.2
同好会・趣味のグループ	324	14.6
住民運動・消費者運動・市民運動の団体	27	1.2
その他	15	0.7
どれにも加入していない	738	33.2
わからない	23	1.0



第15回 統一地方選挙の実態 —調査結果の概要—

平成16年3月発行

編集・発行 財団法人 明るい選挙推進協会
東京都港区虎ノ門2-1-1 商船三井ビル6階
電話 03(3560)6266/6267
ファクシミリ 03(3560)6268
ホームページ <http://www.akaruisenkyo.or.jp/>

